

# 南幌町教育施設長寿命化計画

令和3年3月

南幌町教育委員会



## 目 次

<b>第1章 教育施設長寿命化計画の背景・目的等</b> .....	1
1 背景.....	1
2 目的.....	1
3 計画期間.....	1
4 対象施設.....	1
5 計画の位置づけ.....	1
<b>第2章 教育施設の目指すべき姿</b> .....	3
1 町の教育行政方針.....	3
2 学校施設の目指すべき姿.....	6
<b>第3章 教育施設の実態</b> .....	8
1 教育施設を取り巻く状況.....	8
2 教育施設の状況.....	14
3 施設の利用状況.....	18
4 児童生徒数の推移・将来推計.....	19
5 施設関連経費の推移.....	20
6 教育施設の老朽化状況の実態.....	22
<b>第4章 教育施設整備の基本的な方針等</b> .....	37
1 教育施設の規模・配置計画等の方針.....	37
2 教育施設の整備・配置方針に関する選定.....	41
3 改修等の基本的な方針.....	49
4 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等.....	54
<b>第5章 長寿命化の実施計画</b> .....	55
1 優先順位の考え方.....	55
2 施設管理の長期的見通し.....	56
3 計画期間内の実施計画.....	56
4 長寿命化のコストの見通し・長寿命化の効果.....	57
<b>第6章 長寿命化計画の継続的運用方針</b> .....	58
1 情報基盤の整備と活用.....	58
2 推進体制等の整備.....	58
3 フォローアップ.....	58



# 第1章 教育施設長寿命化計画の背景・目的等

## 1 背景

平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」（インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）において、各インフラの管理者及び当該インフラを所管する国や地方公共団体の各機関は、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにする計画として、「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定することとされました。南幌町は、このことを踏まえ、域内のインフラ全体における整備の基本的な方針として平成29年3月に「南幌町公共施設等総合管理計画」を策定したところです。

その後、さらに各地方公共団体は、公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設毎の具体的な対応方針を定める計画として、令和2年度までに個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）を策定することとされました。

このうち、特に、域内の学校施設等を対象として、基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画が「教育施設長寿命化計画」となります。

## 2 目的

本計画は、教育施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、教育施設に求められる機能・性能を確保するため、施設毎の中長期的な方針を示すことを目的として策定します。

## 3 計画期間

計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

また、進捗状況等を踏まえ5年程度で見直すものとします。

## 4 対象施設

本計画の対象施設は、教育関連施設10施設とします。

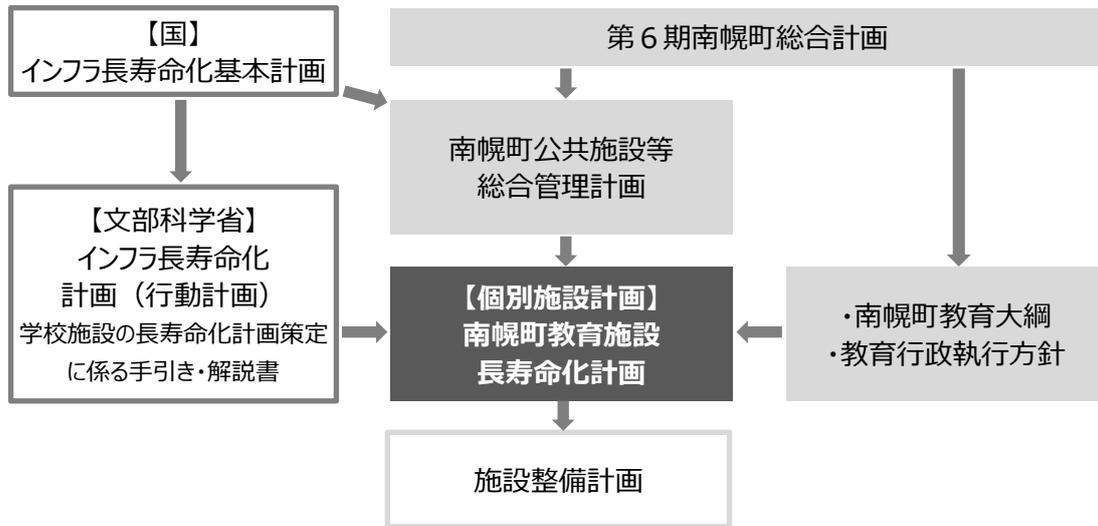
※対象施設概要は後述14ページ参照

## 5 計画の位置づけ

本計画は、町の最上位計画の「第6期南幌町総合計画」を受け、上位計画である「南幌町公共施設等総合管理計画」の部門別個別施設計画として位置づけます。

文部科学省では、学校施設環境改善交付金の交付を受けようとする地方公共団体に対して施設整備計画の提出を義務付けています。この施設整備計画は、本計画に基づくものであることが求められています。

図 1-1 計画の位置づけ



## 第2章 教育施設の目指すべき姿

### 1 町の教育行政方針

#### (1) 南幌町教育大綱（平成29年4月）

大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3に規定されるもので、南幌町教育目標の実現を図るため、「南幌町総合計画」における教育・文化分野の基本政策を踏まえ策定されています。計画期間は平成29年度から令和3年度までの5年間です。

以下に基本理念、基本目標及び教育施設整備関連施策を抜粋します。

#### 基本目標

《地域に根ざした教育と文化の高いまち》

#### 基本方針

- ・地域みんなで支える子育て・家庭教育の推進
- ・地域とともにある学校教育の推進
- ・豊かな心を育てる生涯学習・社会教育の推進
- ・健康な心身を育てるスポーツ・レクリエーション活動の推進
- ・ふるさとの記憶を伝える芸術・文化活動の推進

#### 教育の主要施策の内容（教育施設整備関連施策抜粋）

##### (1) 学校教育の推進

- ・確かな学力の向上
  - ・基礎的・基本的な知識・技能の定着
  - ・望ましい生活習慣と学習習慣の定着
  - ・長期休業中の補充的な学習の実施
  - ・小・中・高校間が連携した学習交流
  - ・公設学習塾の開設
  - ・外国語指導助手による実践的なコミュニケーション能力の育成と適正配置
- ・豊かな心と健やかな体の育成
  - ・体力づくりと運動習慣の改善に向けた取組
  - ・学校給食における食育と給食米・麺・パンの全額町負担の実施
- ・開かれた学校づくりと教育活動の充実
  - ・地域とともにある学校づくりに向けたコミュニティ・スクールの推進
  - ・総合的な学習活動や職業体験活動等の充実
  - ・特別支援教育の体制整備
- ・教育環境の充実
  - ・南幌小学校大規模改修工事の実施

##### (2) 社会教育の推進

- ・子育て・家庭教育の支援
  - ・子育て支援の充実
  - ・家庭教育の学習環境の整備・情報提供
- ・青少年健全育成の推進
  - ・学校や地域と連携した多様な学習機会の提供
- ・生涯学習・社会教育の推進
  - ・町民が自主的・主体的に学ぶ機会への支援
- ・スポーツ・レクリエーション活動の推進
  - ・スポーツを通じた地域コミュニティの充実
  - ・スポーツを通じた健康づくり・体力の向上
  - ・スポーツを通じた子どもの体力の向上
- ・芸術・文化活動の推進、ふるさとの記憶の保全
  - ・芸術・文化に触れる機会の充実
  - ・郷土の歴史を伝える資料の保存
  - ・郷土芸能に触れる機会の充実
- ・読書活動の推進
  - ・読書環境の充実

## (2) 令和2年度教育行政執行方針

以下に「令和2年度 教育行政執行方針」の教育施設整備関連部分を抜粋します。教育行政執行方針では「南幌町教育大綱」に示された基本方針に基づき、子どもたちの健やかな成長と生きがいとゆとりのある地域社会の実現を目指し、教育環境の充実に向けた令和2年度における主な施策が示されています。

### (教育施設整備関連部分抜粋)

#### 1. 学校教育の推進

(略) 特に小学校では「プログラミング的思考の学び」がスタートし、加えて外国語教育の実施に伴い、小学3年生から小学6年生までの授業時数が増加するなど大きな変革期を迎えます。

小・中学校9年間の義務教育を通じて、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、家庭、地域、学校、行政が連携・協力しながら課題を共有し、一体となった教育活動の充実に努めてまいります。

##### (1) 確かな学力を育む教育活動の充実

(略)

小・中学校に開設した「公設学習塾」につきましては、これまでの実績や課題を検証し、基礎学力と学習意欲の向上、家庭学習の定着への取組として、小学4年生から中学3年生までを対象に「算数・数学科」、小学6年生を対象に「英語科」を実施してまいります。

また、長期休業中において、小学校では社会教育事業と連携した「あそびの達人特別教室」や中学校では「補習授業」を実施しており、補充的な学習機会の確保に努めてまいります。

(略)

##### (2) 豊かな人間性と健康な体の育成

(略)

教育活動全体を通して、運動や遊びを推奨するとともに、積極的に運動に取り組む意欲を育てるための啓発活動など、児童生徒一人ひとりの体力や運動能力の向上に向けた取組を推進してまいります。

学校給食につきましては、栄養バランスのとれた豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体力の向上を図るとともに、「南幌町食育推進計画」に基づき「農業がもつ食のすばらしさを伝える」という基本理念のもと、地元農産物の活用などを通じて、地域の食文化や主要農産物に対する理解を深めるなどの食育の推進に努めてまいります。

(略)

##### (3) 開かれた学校づくりと教育活動の充実

(略)

特別支援教育につきましては、教育上配慮を必要とする児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導や、支援を受けられる体制づくりを図るため、小・中学校に特別支援教育学習支援員を配置しております。

(略)

##### (4) 教育環境の充実

学校教育を維持・向上させるためには、児童生徒が安心して通学し、継続して学べる教育環境の充実を図ることが重要です。

小学校につきましては、「南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき、1学年2学級を維持するため、町独自による教員の加配により、4年生と6年生に少人数学級を導入し、きめ細かな指導を行ってまいります。

コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用した学習活動の充実を図る学校のICT環境の整備につきましては、「小・中学校ICT環境整備計画」を策定し、検討を行ってまいります。

(略)

また、町が平成28年度に策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、教育委員会が管理している小・中学校、社会教育施設などの個別施設について、改修に向けた基本的方針や、長寿命化、保全の方針を定めるべく「教育施設長寿命化計画」を策定してまいります。

**(5) 南幌高等学校への支援**

(略)

**(6) 姉妹町児童交流の推進**

(略)

**2 社会教育の推進**

(略)

町民が、心豊かに生きがいのある生活を送るためには、生涯にわたり学び、活躍できる環境を整えていくことが大切であり、町民一人ひとりが、それぞれの分野で個性や能力を最大限発揮し、その成果を生かせる環境をつくることが重要です。

(略)

**(1) 子育て・家庭教育の支援**

(略)

南幌みどり野幼稚園や小・中学校、PTAと連携した学習機会の提供や、家庭教育ナビゲーターとの協力により、家庭教育力の向上に努めてまいります。

**(2) 青少年健全育成の推進**

(略)

生涯学習サポーターの協力を得て、小学校や学童保育と連携を図り、「放課後子どもプラン推進事業」を実施し、多様な学習や体験ができる居場所づくりに努めてまいります。

(略)

**(3) 生涯学習、社会教育の推進**

(略)

生涯学習センター「ぼろろ」を拠点に、町民の主体的な学びの機会を促し、事業の企画段階から関わりをもって、自主的・主体的に学ぶことができる講座の開設や高齢者の学ぶ意欲の向上に繋がる学習機会の提供に努めてまいります。

(略)

**(4) スポーツ・レクリエーション活動の推進**

(略)

生涯にわたり、健康な心と体をつくるため、「だれもが・いつでも・どこでも・気軽に」スポーツに親しむことができる環境づくりが重要です。

そのため、年齢・体力・技術に応じたスポーツ教室を開催するとともに、スポーツ推進委員や関係団体と連携・協力し、各種大会を通じた交流を図り、生涯スポーツの推進に取り組んでまいります。

また、子どもたちの体力向上を目指し、運動能力の基礎が形成される低学年を対象としたスポーツ教室を開催するなど、幼少年期からスポーツに親しむ環境づくりに努めてまいります。

**(5) 芸術・文化活動の推進、ふるさとの記憶の保全**

(略)

郷土芸能に触れる機会の提供や郷土芸能の伝承・普及活動を行っている団体を支援するとともに、まちの歴史を伝える貴重な資料の保存・継承に努めてまいります。

**(6) 読書活動の推進**

(略)

蔵書の充実を図り、利用者にとって気軽に読書や学習活動ができる場となるよう、生涯学習センター図書室の読書環境やサービスの充実を努めてまいります。

(略)

**(7) 社会教育関係施設の充実**

生涯学習センター「ぼろろ」をはじめとする社会教育関係施設は、町内外の多くの方々にご利用いただいています。

これらの施設が子どもから高齢者まで、だれもが安全かつ安心して利用できるよう、適正な維持管理と利用環境の向上に努めてまいります。

また、スポーツセンターにつきましては、引き続きトレーニング機器の充実を図り、利用促進に努めてまいります。

なお、夕張太プールにつきましては、施設の老朽化により令和元年度をもって廃止しますが、多くの子どもたちが気軽に利用できるよう、町民プールの施設運営に努めてまいります。

## 2 学校施設の目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿は、教育行政方針を前提としつつ、今後の学校施設整備の取り組みにおいて実現すべき目標像となります。

ここでは、文部科学省の「学校施設整備基本構想の在り方について」（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議（平成 25 年 3 月））において示された学校施設の目指すべき姿を参考に町としての目指すべき姿を示します。

### 学校施設の目指すべき姿

#### 1. 安全性

##### ○災害対策

- ・地震に強い学校施設
- ・洪水・暴風等の自然災害に強い学校施設
- ・防災機能を備えた学校施設

##### ○防犯・事故対策

- ・安全で安心な学校施設

#### 2. 快適性

##### ○快適な学習環境

- ・学習能率の向上に資する快適な学習環境
- ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校
- ・バリアフリーに配慮した環境
- ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間

##### ○教職員に配慮した環境

- ・教職員に配慮した空間
- ・教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要な I C T 環境

#### 3. 学習活動への適応性

##### ○主体性を養う空間の充実

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間
- ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間
- ・社会性を身に着けるための空間

##### ○効果的・効率的な施設整備

- ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間
- ・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための I C T 環境
- ・各教科等の授業を充実させるための環境

##### ○言語活動の充実

- ・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境

#### ○理数教育の充実

- ・充実した観察・実験を行うための環境

#### ○運動環境の充実

- ・充実した運動ができるための環境

#### ○伝統や文化に関する教育の充実

- ・伝統や文化に関する教育を行うための環境

#### ○外国語教育の充実

- ・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間

#### ○学校図書館の活用

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのICT環境
- ・地域に開かれた学校とするための環境
- ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

#### ○キャリア教育・進路指導の充実

- ・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境

#### ○食育の充実

- ・食育のための空間

#### ○特別支援教育の推進

- ・バリアフリーに配慮した環境
- ・自閉症、情緒障害又はADHD等のある児童生徒に配慮した学校施設

#### ○環境教育の充実

- ・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール

### **4. 環境への適応性**

- ・環境を考慮した学校施設（エコスクール）

### **5. 地域の拠点化**

- ・安全で安心な学校施設
- ・バリアフリーに配慮した環境
- ・地域に開かれた学校とするための環境
- ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

## 第3章 教育施設の実態

### 1 教育施設を取り巻く状況

#### (1) 南幌町の概要

南幌町は、石狩平野に位置し、夕張川、千歳川に囲まれ、東北は岩見沢市、東南は旧夕張川を隔てて長沼町、西南は千歳川を挟んで北広島市、江別市に接しています。

面積は81.36km<sup>2</sup>で、地目別面積をみると、田は52.13km<sup>2</sup>であり、総面積の64.1%を占めています。宅地は4.41km<sup>2</sup>(5.4%)であり、コンパクトな市街地が形成されています。

図 3-1 土地利用図

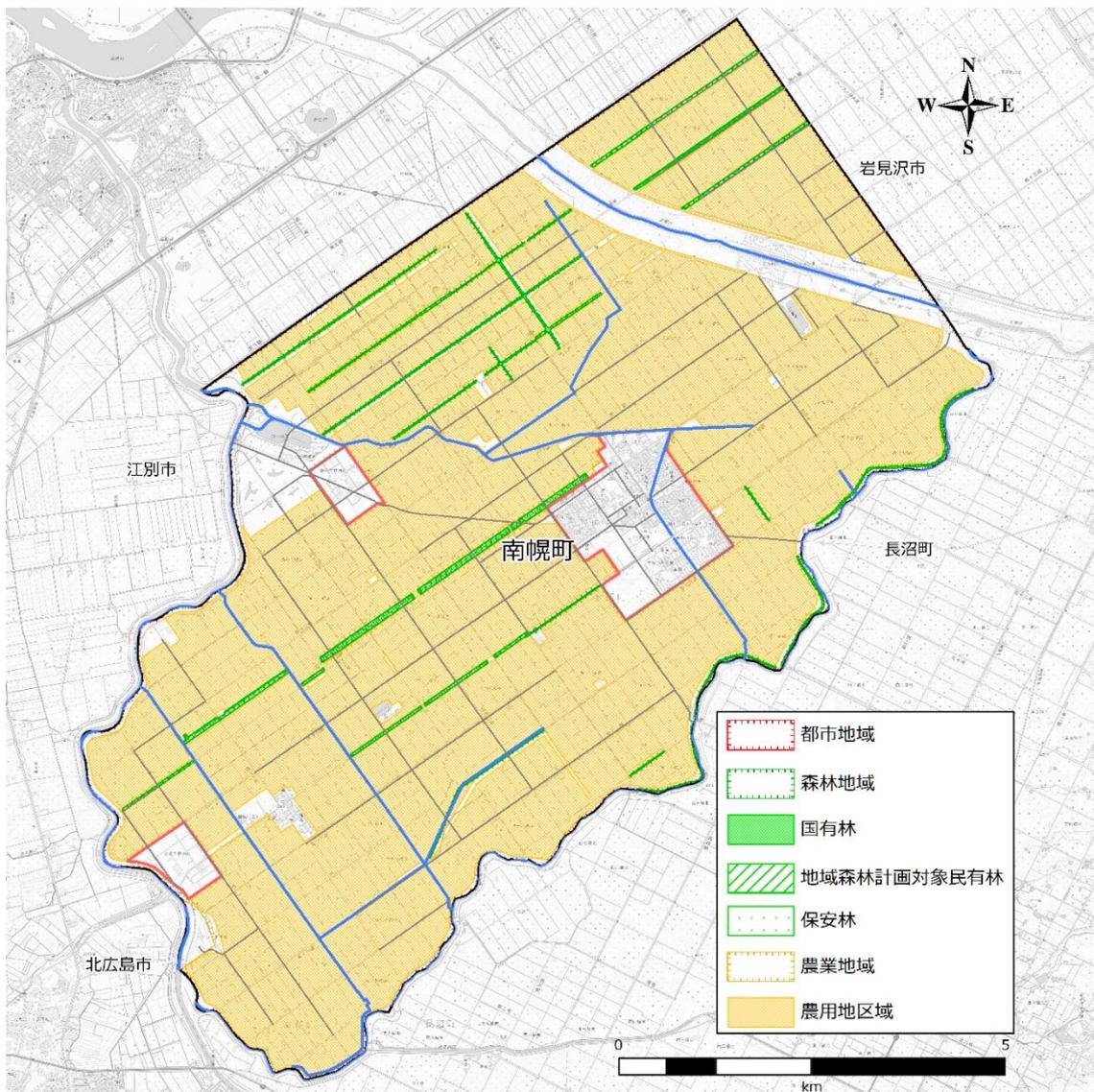


表 3-1 地目別面積

(単位: km<sup>2</sup>)

地目	田	畑	宅地	牧場	原野	雑種地	その他	合計
面積	52.13	2.35	4.41	0.01	0.21	2.55	19.68	81.36
	64.1%	2.9%	5.4%	0.0%	0.3%	3.1%	24.2%	100.0%

資料：令和2年北海道統計書

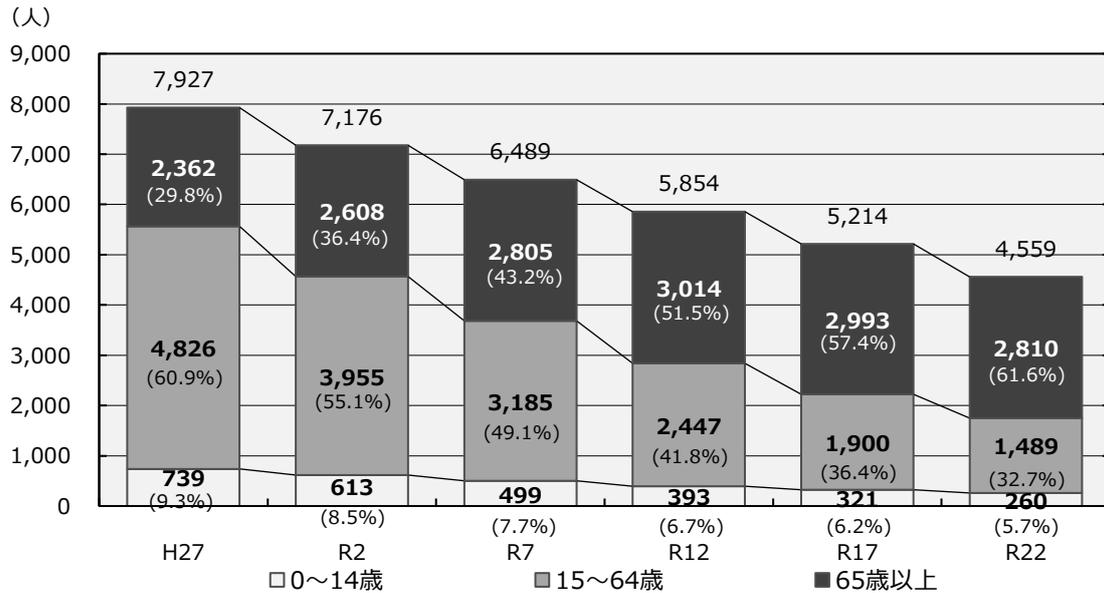
※地目別の面積は、各市町村において、1月1日現在で土地課税台帳又は土地補充課税台帳に登録されている土地のうち、総評価地積と非課税地積を合計したものの。

## (2) 人口推移と将来推計

本町の将来人口は減少見込みであり、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、20年後の令和22年で4,559人と平成27年の7,927人から58%程度になるとされています。

また、少子高齢化が進み令和12年以降は65歳以上が総人口の半数を超える見込みです。一方で、将来年少人口（14歳以下）は、20年後の令和22年では260人と平成27年の739人から39%程度になるとされています。

図3-2 年齢3区分別将来人口の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成30年3月推計値）

### (3) 上位・関連計画

#### ①インフラ長寿命化基本計画（インフラ老朽化対策推進に関する関係省庁連絡会議）

策定年月	平成 25 年 11 月
策定目的	国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るとともに、維持管理・更新に係る産業（メンテナンス産業）の競争力を確保するための方向性を示すものとして、国や地方公共団体、その他民間企業等が管理するあらゆるインフラを対象に、「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、国や地方公共団体等が一丸となってインフラの戦略的な維持管理・更新等を推進する。
目指すべき姿	<p>(1) 安全で強靱なインフラシステムの構築</p> <p>(2) 総合的・一体的なインフラマネジメントの実現</p> <p>(3) メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化</p>
基本的な考え方	<p><b>1. インフラ機能の確実かつ効率的な確保</b></p> <p><b>(1) 安全・安心の確保</b></p> <p>国民生活や社会経済活動の基盤であるインフラは、時代とともに変化する社会の要請を踏まえつつ、利用者や第三者の安全を確保した上で、必要な機能を確実に発揮し続けることが大前提であり、そのために必要な取組を確実に推進する。</p> <p><b>(2) 中長期的視点に立ったコスト管理</b></p> <p>厳しい財政状況下で必要なインフラの機能を維持していくためには、様々な工夫を凝らし、的確に維持管理・更新等を行うことで中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化を図る必要がある。これらを確実に実行することにより、インフラ投資の持続可能性を確保する。</p> <p><b>2. メンテナンス産業の育成</b></p> <p>一連のメンテナンスサイクルを継続し、発展させていくためには、インフラの安全性・信頼性の向上や、維持管理・更新業務の効率性の向上を図るための新技術の開発・導入が極めて重要である。このため、産学官の連携の下、研究開発を推進し、生み出される新技術を積極的に活用することで、メンテナンス産業に係る市場の創出・拡大を図る。これらを通じ、民間開発を活性化させ、我が国のメンテナンス技術を世界の最先端へと導くことで、世界をリードする輸出産業へと発展させる。</p> <p><b>3. 多様な施策・主体との連携</b></p> <p>インフラは、社会経済活動の基盤であり、インフラ相互はもとより、ソフト施策とも相まって、様々な機能を発揮する。このため、多様な施策や主体との連携により維持管理・更新等の効率化を図りつつ、その機能を最大限発揮させていく。</p>
インフラ長寿命化計画等の策定	<p><b>1. インフラ長寿命化計画</b></p> <p>必要なインフラの機能を維持していくためには、メンテナンスサイクルを構築するとともに、それらを支える技術、予算、体制、制度を一体的に整備することが必要である。このため、各インフラを管理・所管する者は、各施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況等を踏まえた上で、行動計画をできるだけ早期に策定する。</p> <p><b>2. 個別施設毎の長寿命化計画</b></p> <p>各インフラの管理者は、各施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況等を踏まえつつ、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画をできるだけ早期に策定し、これに基づき戦略的な維持管理・更新等を推進する。</p>

## ②文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）

策定年月	平成 27 年 3 月	
計画期間	平成 26 年度～令和 2 年度	
策定目的	政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成 25 年 11 月）に基づき、文部科学省の所管施設等の長寿命化に向けた各設置者における取組を推進するため、文部科学省としての行動計画を策定	
計画の範囲	対象施設：維持管理等に関する公財政支出があり、多数の国民を受け入れる施設（国立学校施設、公立社会教育施設、施設運営型独立行政法人、庁舎等）	
目指すべき姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各設置者における「メンテナンスサイクル」（①定期的な点検・診断、②計画策定、③計画に基づく対策の実施）の構築</li> <li>◆これまでの改築中心から長寿命化への転換による、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減</li> <li>◆行動計画・個別施設計画の策定を通じた予算の平準化</li> </ul>	
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第 2 次ベビーブームに対応して整備された学校施設等について、今後、急速な老朽化と整備需要の急増が予想</li> <li>◆建築基準法に基づく点検・診断の実施状況等について地域差が存在</li> <li>◆児童生徒等の安全性の確保はもとより、教育研究活動の高度化・多様化やバリアフリー・省エネ等に対応した機能の向上も必要</li> <li>◆厳しい財政状況等により対策が十分に行われていないおそれ</li> </ul>	
取り組みの方向性	点検・診断の着実な実施	地域差のない点検の着実な実施を要請、点検実施の手引を作成・提供
	個別施設計画の策定	個別施設計画策定の手引の作成・提供等により各設置者の取組を促進
	対策の着実な実施	個別施設計画に基づく着実な取組を促進
	予算管理	トータルコスト縮減・予算の平準化の促進、必要な予算の安定的な確保
	指針・手引の策定	「点検・診断」「計画」「対策」の各段階に対応する指針・手引の整備・充実
	体制の構築	体制構築の重要性・手段等に関する周知、先駆的事例の普及啓発
	情報基盤の整備及び活用	施設に関する情報の蓄積・共有の有用性に関する普及啓発
	新技術の開発・導入	非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知
フォローアップ	各設置者における取組の進捗状況の把握、課題の整理、解決に向けた取組の支援	

③第6期南幌町総合計画

策定年月	平成 29 年 3 月
計画期間	平成 29 年度～令和 8 年度
策定趣旨 ・構成	行政経営の基本的な指針 基本構想： 町の将来像を定め、これを実現するための基本政策を明らかにする。 基本計画： 基本政策を実現するために今後実施していく施策の内容を明らかにする。
基本構想	まちの将来像：緑豊かな田園文化のまち 基本政策： ・町民協働に支えられる自立したまちづくり【行財政分野】 ・地域ぐるみで支え育てる活力ある産業経済のまちづくり【産業経済分野】 ・地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり【教育・文化分野】 ・健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり【保健福祉・医療分野】 ・安心して楽しく暮らせる快適な生活環境のまちづくり【生活環境分野】
基本計画 (教育施設 整備関連 抜粋)	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり (2) 地域とともにある学校教育の推進 ② 地域と連携した開かれた学校教育 【施策のねらいと展開方向】 ● 小中学校における I C T (情報通信技術) 環境の整備を行い、教育の情報化を推進 ● 国及び道の少人数学級基準が適用された学年について、小学校の在籍中を通じて、適正規模である 2 学級を維持 ● 南幌小学校の大規模改修工事を行い、学校施設の機能改善を図り、児童等の安全安心な学校生活を確保 (4) 健康な心身を育てるスポーツ・レクリエーション活動の推進 ① スポーツ・レクリエーション活動の充実 【施策のねらいと展開方向】 ● 体育施設の管理・運営を適切に行い、利用者の利便性の向上に努める。 ● スポーツセンターをはじめとした体育施設の計画的な修繕等に努める。 (5) ふるさとの記憶を伝える芸術・文化活動の推進 ② ふるさとの記憶の保全 【施策のねらいと展開方向】 ● 南幌町の歴史を伝えるための貴重な資料等の適切な保存・継承に努める。

#### ④南幌町公共施設等総合管理計画

策定年月	平成 29 年 3 月（令和 2 年 4 月一部改訂）
計画期間	平成 29 年度～令和 8 年度
策定目的	公共施設等の全体像を明らかにし、長期的な視点を持って、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進する。
基本方針	<p>（４）公共施設等の管理に関する方針</p> <p>①公共施設（建築物）の維持管理の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設（建築物）の維持管理及び改修・更新は、建設時から経過した年月によって、点検・診断、耐震化、改修・修繕、長寿命化、更新の実施方針を整理</li> <li>建築物以外の屋外施設については、適切な点検・診断等により効率的な維持管理に努める。</li> </ul> <p>③安全確保の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点検の結果、危険性が認められた施設については、施設の利用状況や優先度を踏まえ計画的な改修、解体・撤去を検討し、対応する。</li> <li>今後利用見込みのない施設については、周辺環境への影響を考慮し、解体、除去するなどの対策を講じ、安全性の確保を図る。</li> </ul> <p>④長寿命化の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も保持していく必要がある施設については、定期的な点検や修繕による予防保全に努めるとともに、計画的な機能改善による施設の長寿命化を推進する。</li> <li>全庁的な観点から、他の計画と整合を図りながら、公共施設マネジメント全体として推進する。</li> </ul> <p>⑤統合や廃止の推進方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の整備状況、利用状況、運営状況、費用の状況等を踏まえ、必要に応じて公共施設等の統合・廃止や規模縮小等を検討する。</li> <li>施設特性を考慮した町全体及び地区を対象とするサービス（機能）に対応する施設の維持・効率化等の検討を推進する。</li> </ul>
施設類型ごとの基本方針	<p>（４）公営住宅等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員住宅については、修繕等を適切に行い維持管理に努め、延命化を図る。</li> </ul> <p>（６）スポーツ・観光施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでスポーツセンターや町民プール、野球場、パークゴルフ場などの施設整備を進めてきましたが、今後も野球場などの計画的改修と機能充実を進める。</li> </ul> <p>（７）学校教育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の整備と快適な学校生活の視点で、施設管理を進める。</li> <li>施設管理については、予防保全の考え方を導入しながら、事前に建物の点検等を強化し、施設の長寿命化に努める。</li> </ul> <p>（８）社会教育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年のライフスタイルや価値観の多様化、生涯を通じての学習ニーズの多様化、さらには地域課題について町民の自主的・組織的な学習により解決を図る地域づくり・まちづくりを進めるために、拠点となる社会教育施設の維持及び機能の充実を進める。</li> </ul>

## 2 教育施設の状況

### (1) 対象施設一覧

本計画の対象となる町内の教育施設は、10施設であり、施設分類別では、公営住宅等のうち教員住宅、スポーツ・観光施設のうちスポーツセンター等3施設、学校教育施設は南幌小学校及び南幌中学校の2校及び給食センター、社会教育施設は生涯学習センター等3施設となっています。

表 3-2 対象施設の概要

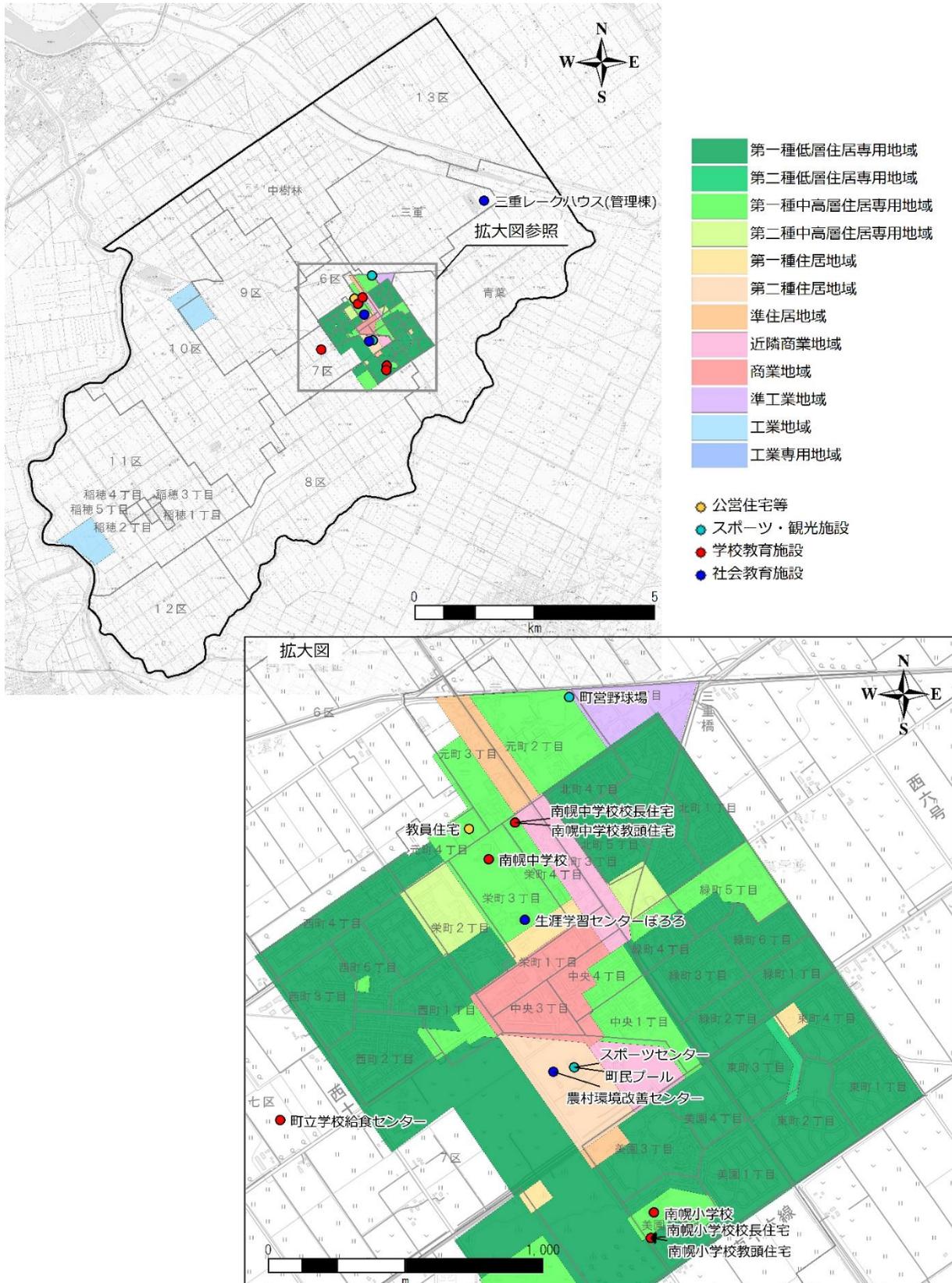
分類	施設名	建物名	延床面積 (㎡)	建設年度	児童 生徒数 (人)	学級数
公営住宅等	教員住宅	教員住宅	1,020	H7	—	—
		受水槽	29	H7	—	—
スポーツ・観光施設	スポーツセンター		3,658	H4	—	—
	町民プール		1,064	H27	—	—
	町営野球場	本部席	38	S53	—	—
学校教育施設	南幌小学校	校舎	7,916	H7	273	17
		屋体	1,574	H7		
		用具室&トイレ	59	H7		
		温室	57	H7		
		校長住宅	86	H7	—	—
		教頭住宅	86	H7	—	—
	南幌中学校	校舎	4,041	S44	161	10
		屋体	999	S44		
		校長住宅	86	H3	—	—
		教頭住宅	86	H3	—	—
町立学校給食センター		696	H4	—	—	
社会教育施設	生涯学習センターぼろろ		4,790	S48	—	—
	農村環境改善センター		1,984	S57	—	—
	三重レカウス	管理棟	402	S57	—	—
合計			28,671		434	27

令和2年4月1日現在

## (2) 教育施設の配置状況

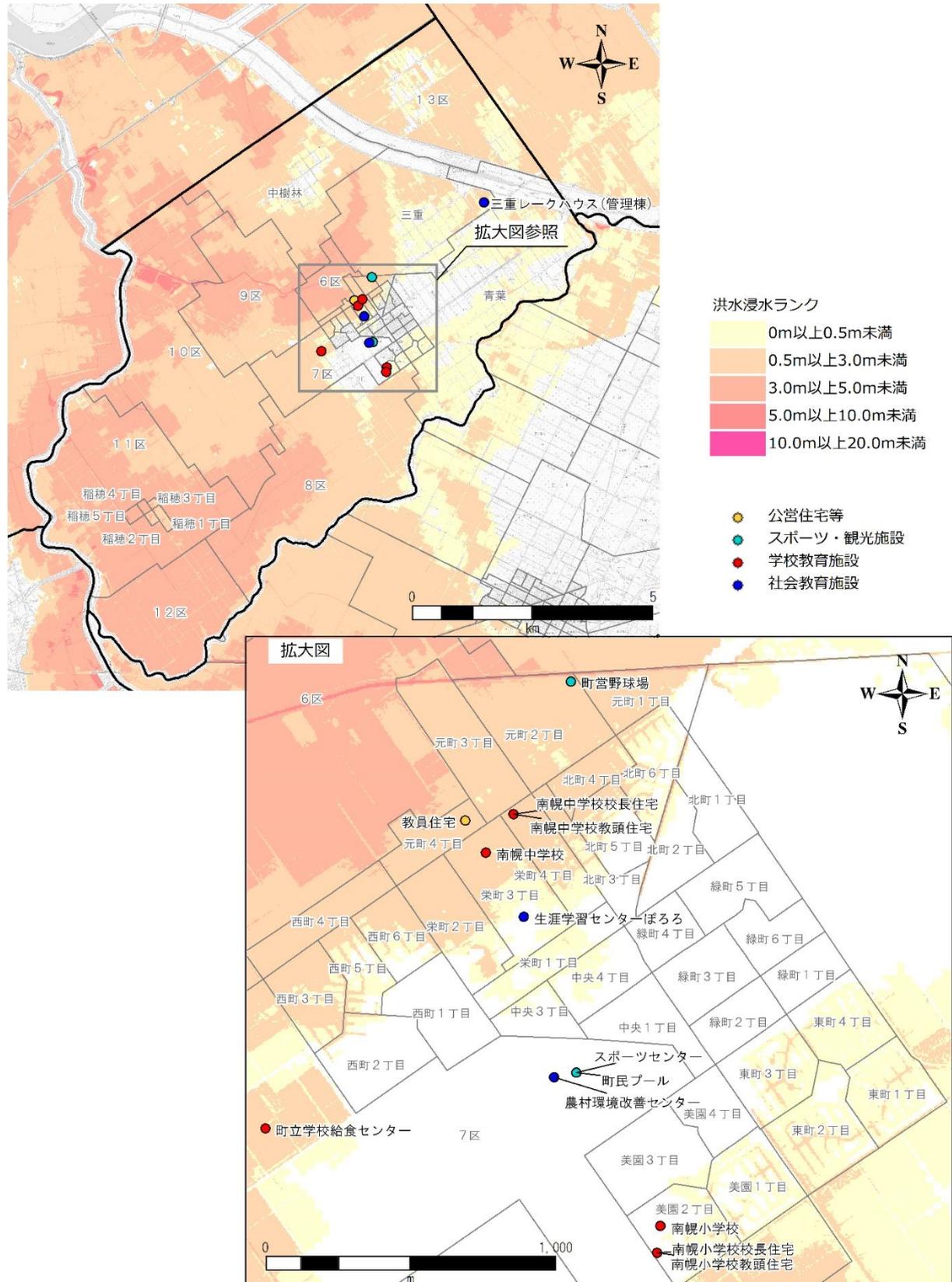
教育施設の立地状況を見ると、三重レークハウス及び学校給食センターを除いた全ての地区が都市計画上の用途地域内に立地しています。

図 3-3 対象施設位置図 (都市計画図)



市街地内の一部は想定最大規模（年超過確立 1/1,000 程度）の降雨の場合に浸水が想定されています。対象施設においては、教員住宅、町営野球場、南幌中学校及び学校給食センターで 0.5～3 m未満の浸水が想定されています。

図 3-4 対象施設位置図（浸水想定区域（想定最大規模））

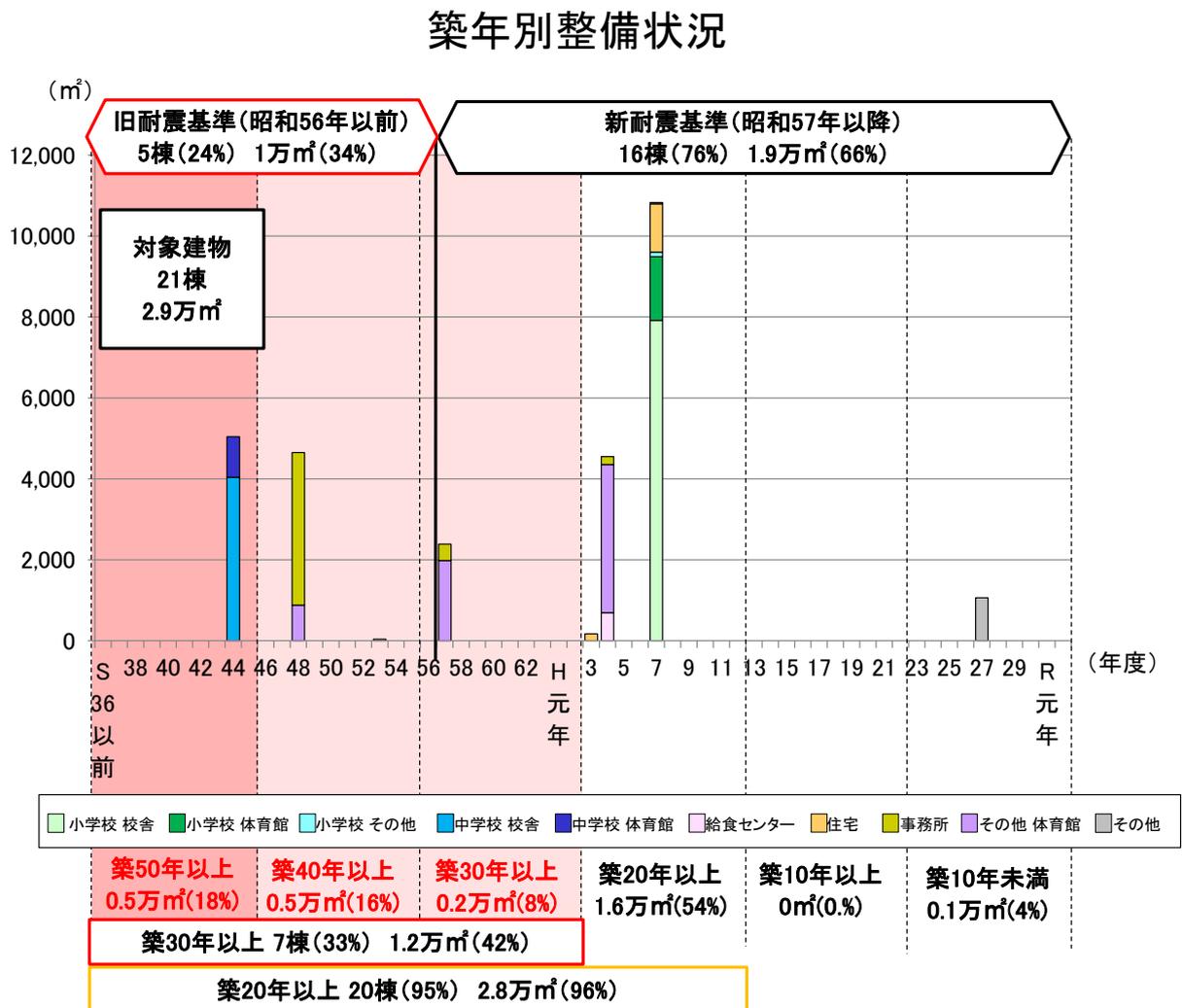


### (3) 教育施設の築年別整備状況

教育施設の総延床面積は 28,671 m<sup>2</sup>であり、そのうち、南幌中学校（校舎・屋体）、生涯学習センターぱろろ、町営野球場が築 40 年を経過しており、延床面積では 9,868 m<sup>2</sup>（総延床面積の約 34%）となっています。

また、上記建物は旧耐震基準で建てられたため、南幌中学校及び生涯学習センターぱろろは耐震改修を実施しましたが、町営野球場については耐震診断が未実施となっています。

図 3-5 教育施設の築年別整備状況



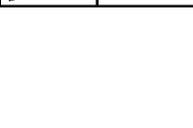
### 3 施設の利用状況

施設利用状況を見ると、全体的に大きな増減なく利用されている状況です。

学校施設では、児童・生徒数の減少に合わせて学校給食センターの配食数が減少しています。

学校施設以外では、三重レークハウスが増加傾向であり、令和元年度の利用者数は平成 27 年度の 1.5 倍となっています。反対に、町営野球場は減少しており、令和元年度の利用者数は平成 27 年度の半数となっています。

表 3-3 年度別施設利用者数<sup>※</sup>の推移

(単位：人、食)									
分類	施設名称	H27	H28	H29	H30	R1	合計	平均	傾向 (R1/H27)
公営住宅等	教員住宅	91.7%	83.3%	91.7%	83.3%	75.0%	-	85.0%	 0.82
スポーツ・観光施設	スポーツセンター	51,342	51,532	50,824	52,671	53,466	259,835	51,967	 1.04
	町民プール	-	8,797	7,848	8,244	8,656	33,545	8,386	 0.98
	町営野球場	3,615	2,659	2,602	2,019	1,824	12,719	2,544	 0.50
学校教育施設	南幌小学校	300	305	292	285	277	1,459	292	 0.92
	南幌中学校	189	163	168	168	164	852	170	0.87
	南幌小学校校長住宅	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%	1.00
	南幌小学校教頭住宅	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%	1.00
	南幌中学校校長住宅	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%	1.00
	南幌中学校教頭住宅	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%	1.00
	町立学校給食センター	106,250	100,540	101,114	99,767	88,523	496,194	99,239	0.83
社会教育施設	生涯学習センターぼろろ	28,937	28,584	29,035	28,338	26,209	141,103	28,221	0.91
	農村環境改善センター	18,074	20,965	18,752	16,204	19,542	93,537	18,707	1.08
	三重レークハウス	6,035	6,267	9,385	7,971	8,796	38,454	7,691	1.46

※住宅は入居率、小中学校は児童・生徒数、学校給食センターは配食数

※町民プールは4箇年平均 (H28~R1)

## 4 児童生徒数の推移・将来推計

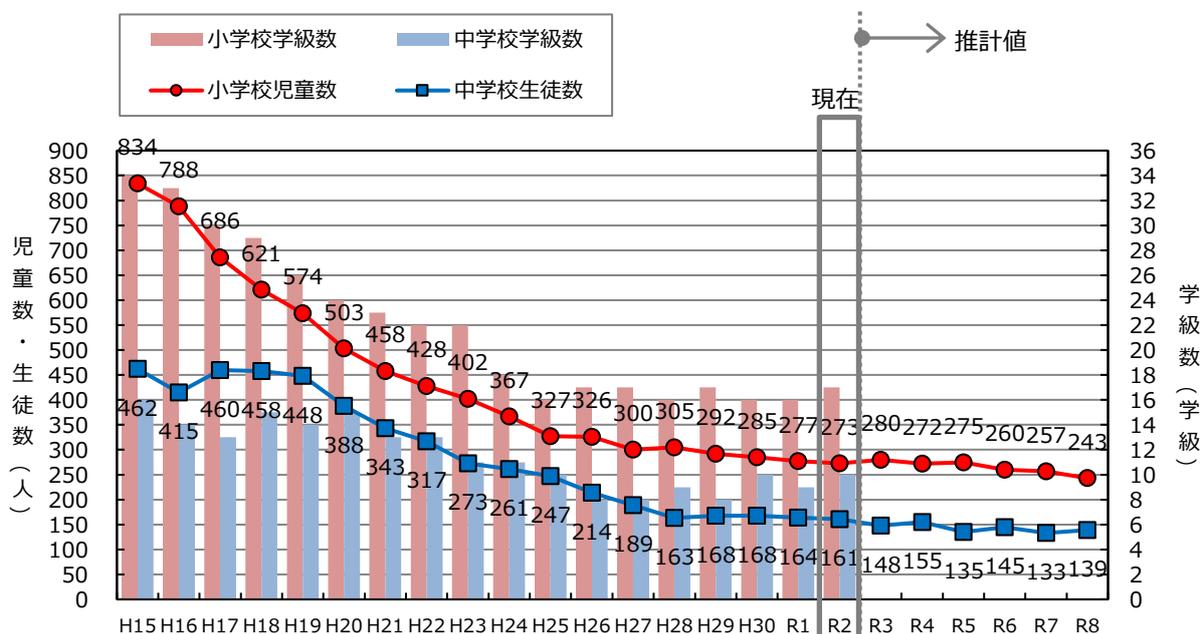
### (1) 小中学校の児童・生徒数等の推移と推計

小中学校の児童生徒数は、令和2年度現在で434人（小学校273人、中学校161人）です。

小学校の児童数は、平成15年度の834人から平成25年度の327人まで毎年度30～100人減少した後、減少数は鈍化したものの、今後も減少する見込みとなっています。

中学校の生徒数は、平成19年度から平成28年度まで大きく減少した後、160人台で推移していましたが、今後は130人台まで減少する見込みです。

図 3-6 児童数・生徒数の推移と推計



資料：学校基本調査、住民基本台帳年齢別人口（令和2年4月1日時点）を基に推計

### 5 施設関連経費の推移

直近5箇年（平成27～令和元年度）の施設関連経費の推移をみると、平成27年度は、南幌中学校の大規模改修及び町民プール建設によって施設整備費が例年より高くなっています。

維持修繕費、光熱水費・委託費は概ね横ばいであり、5箇年平均では、維持修繕費が約790万円（2.7%）、光熱水費・委託費は約6,180万円（21.2%）となっています。

図 3-7 施設関連経費の割合（5箇年平均）

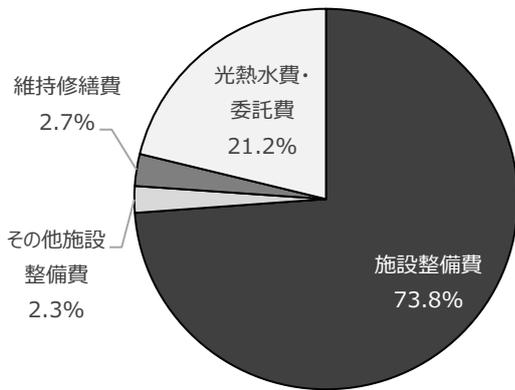


図 3-8 施設別施設関連経費の割合（5箇年合計）

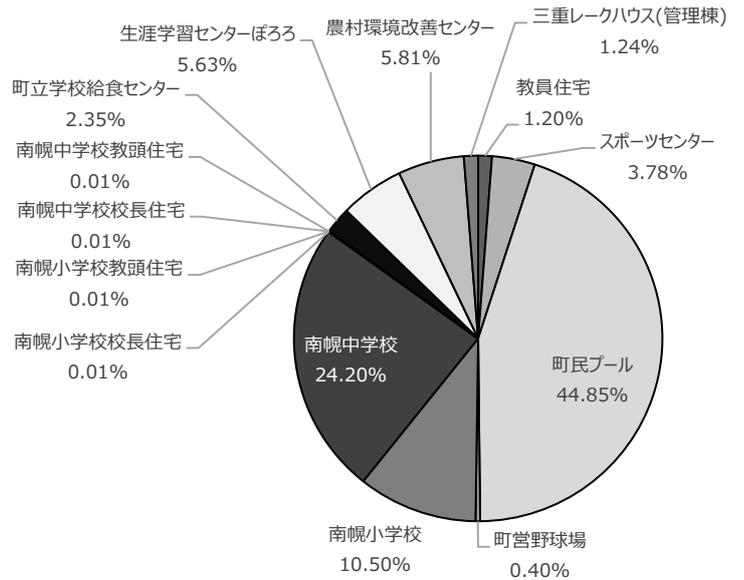


図 3-9 施設関連経費の推移

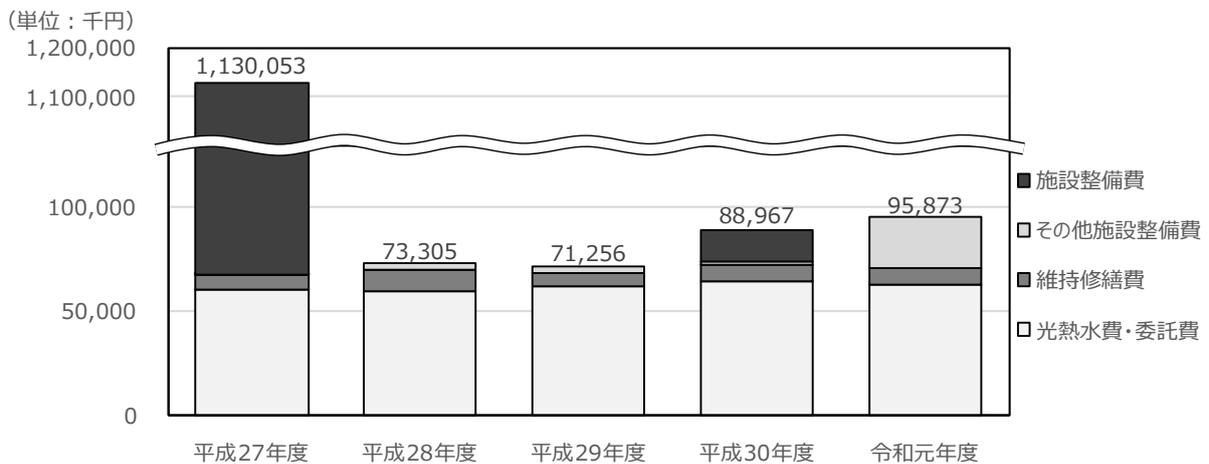


表 3-4 施設関連経費の推移

(単位：千円)

	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	合計	平均
施設整備費	1,062,331	0	0	15,336	0	1,077,667	215,533
その他施設整備費	378	3,023	2,737	1,385	25,491	33,015	6,603
維持修繕費	6,984	10,816	6,500	7,787	7,469	39,555	7,911
光熱水費・委託費	60,360	59,466	62,018	64,460	62,913	309,218	61,844
	1,130,053	73,305	71,256	88,967	95,873	1,459,454	291,891

※表中における単位未満の数値は四捨五入をしているため、合計と各項目の和が一致しない場合があります。

施設別にみると、生涯学習センターぼろろ及び農村環境改善センターは、毎年度 1,000 万円を超えており、スポーツセンターも平成 27 年度を除いた 4 カ年で 1,000 万円を超えています。

施設整備費を除く施設関連経費は、5 箇年平均で約 7,640 万円であり、上記 3 施設で約 4,400 万円と約 6 割を占めています。

表 3-5 年度別施設関連経費の推移

(単位：千円)

施設名称	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	合計
教員住宅	67	452	495	15,956	605	17,575
スポーツセンター	9,202	12,380	11,485	11,838	10,197	55,101
町民プール	619,596	7,923	8,527	9,475	9,069	654,590
町営野球場	648	0	119	497	4,549	5,813
南幌小学校	123,782	7,662	7,807	7,007	6,921	153,180
南幌中学校	335,224	4,436	4,473	5,068	3,988	353,189
南幌小学校校長住宅	200	0	0	0	0	200
南幌小学校教頭住宅	200	0	0	0	0	200
南幌中学校校長住宅	0	0	0	0	117	117
南幌中学校教頭住宅	0	0	213	0	0	213
町立学校給食センター	6,901	6,842	6,509	6,883	7,116	34,251
生涯学習センターぼろろ	12,203	18,444	16,611	17,217	17,657	82,133
農村環境改善センター	12,896	12,605	12,867	12,877	33,505	84,750
三重レークハウス(管理棟)	9,133	2,560	2,150	2,150	2,150	18,144
合計	1,130,053	73,305	71,256	88,967	95,873	1,459,454

※表中における単位未満の数値は四捨五入をしているため、合計と各項目の和が一致しない場合があります。

表 3-6 施設別関連経費内訳 (平成 27～令和元年度合計)

(単位：千円)

施設名称	施設整備費	その他 施設整備費	維持修繕費	光熱水費・ 委託費	合計	平均 (施設整備費除く)
教員住宅	15,336	1,446	458	335	17,575	448
スポーツセンター	0	643	5,886	48,573	55,101	11,020
町民プール	619,596	0	0	34,994	654,590	8,749
町営野球場	0	3,467	2,346	0	5,813	1,163
南幌小学校	113,292	0	6,477	33,411	153,180	7,978
南幌中学校	322,855	0	5,475	24,859	353,189	6,067
南幌小学校校長住宅	0	0	200	0	200	40
南幌小学校教頭住宅	0	0	200	0	200	40
南幌中学校校長住宅	0	0	117	0	117	23
南幌中学校教頭住宅	0	0	213	0	213	43
町立学校給食センター	0	0	3,530	30,721	34,251	6,850
生涯学習センターぼろろ	0	3,915	10,989	67,228	82,133	16,427
農村環境改善センター	0	23,544	2,859	58,347	84,750	16,950
三重レークハウス(管理棟)	6,588	0	806	10,750	18,144	2,311
合計	1,077,667	33,015	39,555	309,218	1,459,454	76,357

※住宅：光熱水費無し(入居者負担)、町営野球場：光熱水費・委託費未計上(公園施設を含めた指定管理制度のため単独計上不可)、三重レークハウス：光熱水費無し(指定管理者負担)

※町民プールは 4 箇年平均(H28～R1)

※表中における単位未満の数値は四捨五入をしているため、合計と各項目の和が一致しない場合があります。

## 6 教育施設の老朽化状況の実態

### (1) 教育施設の劣化状況等の評価

#### ① 構造躯体の健全性

対象施設のうち、昭和 56 年以前の旧耐震基準の建物は 5 棟あり、そのうち南幌中学校、生涯学習センターぼろろは耐震改修をしていますが、町営野球場は耐震診断を行っていないため、調査が必要です。

残りは、新耐震基準の施設であり、全棟が一定の安全性を有しています。

#### ② 構造躯体以外の劣化状況

建物の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備・機械設備の劣化状況等について、調査および評価を行い、評価結果を踏まえた教育施設の課題を整理します。

##### ※該当する部位

内部仕上げ：床、壁、天井、内部開口部、室内表示、手すり、固定家具など、照明器具、衛生器具、冷暖房器具

電気設備：建物内の分電盤・配線・配管（電灯・コンセント設備）（弱電設備）

機械設備：建物内の給水配管・給湯配管・排水配管・ガス配管

#### a. 評価方法・評価基準

屋根・屋上、外壁については目視調査により評価します。また、内部仕上げ、電気設備・機械設備については、部位の全面的な改修年からの経過年数等による劣化状況を踏まえ評価します。

##### 屋根・屋上、外壁の評価基準

A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全・機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全・機能上、不具合発生の兆し）
D	早急に対応する必要がある（安全・機能上、問題あり）

##### 内部仕上げ、電気設備・機械設備の評価基準

A	20 年未満
B	20～40 年
C	40 年以上
D	経過年数に係わらず著しい劣化事象がある場合

※建設年、もしくは部位の全面的な改修をした場合は、改修年からの経過年数

## b. 施設情報・評価結果一覧

現在の劣化状況評価結果は、下表のとおりです。

屋根・屋上では、雨漏りが見られるスポーツセンター、南幌中学校（屋体）及び農村環境改善センターがDランクであり、劣化が進む南幌小学校（校舎・屋体）がCランクです。

外壁では、鉄筋露出が多数みられる町営野球場（本部席）がDランクであり、ひび割れが広範囲にみられるスポーツセンター、南幌小学校（用具室・トイレ）、学校給食センター及び農村環境改善センターがCランクです。

内部仕上・電気設備・機械設備については、建築年度及び改修年度からの経過年数で評価しておりますが、生涯学習センターぼろろ（多目的ホール）の内部仕上については、天井の鉄骨に錆が広範囲で見られることからCランクとなっています。

以上を踏まえた健全度では、町営野球場（本部席）が37点で最も低く、次いで、スポーツセンターが59点、以下、南幌小学校（用具室・トイレ）、南幌中学校（屋体）、学校給食センター及び生涯学習センターぼろろ（多目的ホール）が60点台となっています。

表 3-7 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

□：築30年以上

□：築50年以上

建物基本情報									構造躯体の健全性				劣化状況評価					
通し番号	施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
						西暦	和暦		区分	基準	診断							
1	教員住宅	教員住宅	RC	3	1,020	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77
2	教員住宅	受水槽	CB	1	29	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84
3	スポーツセンター	スポーツセンター	RC	3	3,658	1992	H4	28	新	-	-	長寿命	D	C	B	B	B	59
4	町民プール	町民プール	木造	1	1,064	2015	H27	5	新	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100
5	町営野球場	本部席	非木造	1	38	1978	S53	42	旧	-	-	要調査	A	D	C	C	C	37
6	南幌小学校	校舎	RC	2	7,916	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72
7	南幌小学校	屋体	SRC	2	1,574	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	C	A	A	B	B	89
8	南幌小学校	用具室&トイレ	CB	1	59	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65
9	南幌小学校	温室	軽量鉄骨	1	57	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82
10	南幌中学校	校舎	RC	3	4,041	1969	S44	51	旧	済	済	長寿命	A	B	B	C	B	73
11	南幌中学校	屋体	S	2	999	1969	S44	51	旧	済	済	長寿命	D	B	B	C	A	68
12	南幌小学校	校長住宅	木造	1	86	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84
13	南幌小学校	教頭住宅	木造	1	86	1995	H7	25	新	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77
14	南幌中学校	校長住宅	木造モルタル	1	86	1991	H3	29	新	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75
15	南幌中学校	教頭住宅	木造モルタル	1	86	1991	H3	29	新	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75
16	町立学校給食センター	給食センター	RC	1	696	1992	H4	28	新	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65
17	生涯学習センターぼろろ	本館	RC	3	3,769	1973	S48	47	旧	済	済	長寿命	B	B	B	A	A	81
18	生涯学習センターぼろろ	本館（増築）	鉄骨系ALC	1	198	1992	H4	28	新	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93
19	生涯学習センターぼろろ	多目的ホール	S	2	879	1973	S48	47	旧	済	済	長寿命	B	B	C	B	A	65
20	農村環境改善センター	農村環境改善センター	S	2	1,984	1982	S57	38	新	-	-	長寿命	D	C	A	A	A	75
21	三重レクリ	管理棟	S	2	402	1982	S57	38	新	-	-	長寿命	A	B	A	B	B	87

尚、施設別の主な改修履歴は次のとおりです。

表 3-8 棟別改修履歴

建物基本情報									改善履歴（年度）				
通し 番号	施設名	建物名	構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
						西暦	和暦						
1	教員住宅	教員住宅	RC	3	1,020	1995	H7	25	H30	H30			
2	教員住宅	受水槽	CB	1	29	1995	H7	25	H30	H30			H17(給水管)
3	スポーツセンター	スポーツセンター	RC	3	3,658	1992	H4	28		H23	H15(空調)		H21,23(※1階)
4	町民プール	町民プール	木造	1	1,064	2015	H27	5					
5	町営野球場	本部席	非木造	1	38	1978	S53	42					
6	南幌小学校	校舎	RC	2	7,916	1995	H7	25	H27	H27	H23(HV)		
7	南幌小学校	屋体	SRC	2	1,574	1995	H7	25	H27	H27	H27	H27(LED)	
8	南幌小学校	用具室&トイレ	CB	1	59	1995	H7	25					
9	南幌小学校	温室	軽量鉄骨	1	57	1995	H7	25					
10	南幌中学校	校舎	RC	3	4,041	1969	S44	51	H27	H27	H22(HV)	H27(LED)	H27
11	南幌中学校	屋体	S	2	999	1969	S44	51	H21	H21		H27(LED)	
12	南幌小学校	校長住宅	木造	1	86	1995	H7	25					
13	南幌小学校	教頭住宅	木造	1	86	1995	H7	25					
14	南幌中学校	校長住宅	木造モルタル	1	86	1991	H3	29					
15	南幌中学校	教頭住宅	木造モルタル	1	86	1991	H3	29					
16	町立学校給食センター	給食センター	RC	1	696	1992	H4	28					
17	生涯学習センター-ぼろろ	本館	RC	3	3,769	1973	S48	47	H26	H26	H26	H26	H26
18	生涯学習センター-ぼろろ	本館（増築）	鉄骨系「レトロ」	1	198	1992	H4	28	H26	H26	H26	H26	H26
19	生涯学習センター-ぼろろ	多目的ホール	S	2	879	1973	S48	47	H26	H26	H26	H26	H26
20	農村環境改善センター	農村環境改善センター	S	2	1,984	1982	S57	38	H26		H26(HV)	H26	H26
21	三重レクリ	管理棟	S	2	402	1982	S57	38	H27(塗装)	H27(塗装)	H26(HV)		

## (2) 施設別評価結果

### ① 教員住宅

#### 劣化状況評価

#### 1 教員住宅

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
1	教員住宅	RC	1,020	H7	25	77	A	B	B	B	B
2	受水槽	CB	29	H7	25	84	A	A	B	B	B

施設全景



#### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 教員住宅</b> 外壁 ・塗装の剥がれ</p> 	<p><b>5 教員住宅</b> 屋上 ・概ね良好</p> 
<p><b>2 教員住宅</b> 外壁 ・塗装欠け</p> 	<p><b>6 受水槽</b> 外壁 ・概ね良好</p> 
<p><b>3 教員住宅</b> 外壁</p> 	<p><b>7 受水槽</b> 外壁 ・概ね良好</p> 
<p><b>4 教員住宅</b> 屋上 ・概ね良好</p> 	<p><b>8 受水槽</b> 屋根 ・概ね良好</p> 

## ②スポーツセンター

### 劣化状況評価

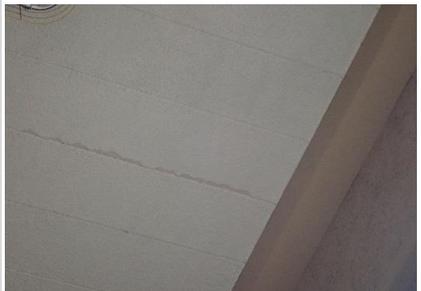
#### 2 スポーツセンター

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
3	スポーツセンター	RC	3,658	H4	28	59	D	C	B	B	B

施設全景



#### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 外壁</b> ・ひび割れ</p> 	<p><b>5 屋上</b> ・防水層の膨れ、亀裂</p> 
<p><b>2 外壁</b> ・幅広亀裂</p> 	<p><b>6 屋上</b> ・防水層の破れ</p> 
<p><b>3 内部</b> ・壁面のひび割れ</p> 	<p><b>7 屋上</b> ・ルーフトレンの損傷</p> 
<p><b>4 内部</b> ・アリーナ天井部 壁材のはく落</p> 	<p><b>8 内部</b> ・天窓周辺の雨漏り</p> 

### ③町民プール

#### 劣化状況評価

#### 3 町民プール

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
4	町民プール	木造	1,064	H27	5	100	A	A	A	A	A

施設全景



#### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 外壁</b> ・概ね良好</p> 	<p><b>5 屋根</b> ・概ね良好</p> 
<p><b>2 外壁</b> ・概ね良好</p> 	<p><b>6 屋根</b> ・概ね良好</p> 
<p><b>3 外壁</b> ・概ね良好</p> 	<p><b>7 屋根</b> ・概ね良好</p> 
<p><b>4 外壁</b> ・概ね良好</p> 	<p><b>8 屋根</b> ・概ね良好</p> 

#### ④町営野球場

#### 劣化状況評価

#### 4 町営野球場

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全度	劣化状況				
				和暦	築年数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
5	本部席	非木造	38	S53	42	37	A	D	C	C	C

施設全景



#### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 本部席</b> 外壁</p>		<p><b>5 ダグアウト</b> ・塗装の剥がれ、亀裂</p>	
<p><b>2 本部席</b> 外壁 ・鉄筋の露出多数</p>		<p><b>6 ダグアウト</b> ・塗装の剥がれ、亀裂</p>	
<p><b>3 本部席</b> 外壁 ・鉄筋の露出多数</p>		<p><b>7 フェンス</b> ・鉄筋の露出 ・全体的に錆</p>	
<p><b>4 本部席</b> 内部 ・壁、床に亀裂</p>		<p><b>8 フェンス</b> ・鉄筋の露出 ・全体的に錆</p>	

⑤南幌小学校

劣化状況評価

5 南幌小学校

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全度	劣化状況				
				和暦	築年数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
6	校舎	RC	7,916	H7	25	72	C	B	B	B	B
7	屋体	SRC	1,574	H7	25	89	C	A	A	B	B
8	用具室&トイレ	CB	59	H7	25	65	B	C	B	B	B
9	温室	軽量鉄骨	57	H7	25	82	B	A	B	B	B



【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 校舎</b> 外壁 ・ひび割れ、白垂多数</p>		<p><b>5 屋体</b> 外壁 ・概ね良好</p>	
<p><b>2 校舎</b> 外壁 ・ひび割れ、白垂多数</p>		<p><b>6 屋体</b> 屋上 ・全体的に塗装剥がれ</p>	
<p><b>3 校舎</b> 内部 腰壁・床劣化</p>		<p><b>7 用具室&amp;トイレ</b> 外壁 ・塗装の剥がれ、亀裂多数</p>	
<p><b>4 校舎</b> 屋上 ・全体的に塗装剥がれ ・防水シート一部剥がれ、劣化</p>		<p><b>8 温室</b> 外壁</p>	

## ⑥南幌中学校

### 劣化状況評価

#### 6 南幌中学校

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
10	校舎	RC	4,041	S44	51	73	A	B	B	C	B
11	屋体	S	999	S44	51	68	D	B	B	C	A

施設全景



#### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 校舎</b> 外壁 ・西面広範囲にひび割れ ・鉄筋露出</p>		<p><b>5 屋体</b> 外壁 ・大きな亀裂</p>	
<p><b>2 校舎</b> 外壁 ・耐震ブレース基礎ひび割れ、白亜多数</p>		<p><b>6 屋体</b> 外壁 ・窓の錆、腐食</p>	
<p><b>3 校舎</b> 廊下窓サッシ ・変形箇所多数</p>		<p><b>7 屋体</b> 屋根</p>	
<p><b>4 校舎</b> 屋上 ・概ね良好</p>		<p><b>8 屋体</b> 内部 ・中心部から雨漏り有</p>	

⑦南幌小学校

劣化状況評価

7 南幌小学校

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
12	校長住宅	木造	86	H7	25	84	A	A	B	B	B
13	教頭住宅	木造	86	H7	25	77	A	B	B	B	B



【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 校長住宅</b></p> <p>外壁 ・基礎に部分的 ひび割れ</p> 	<p><b>5 教頭住宅</b></p> <p>外壁 ・基礎に部分的 ひび割れ</p> 
<p><b>2 校長住宅</b></p> <p>外壁 ・シーリングひび 割れ</p> 	<p><b>6 教頭住宅</b></p> <p>外壁 ・基礎に大きなひび 割れ</p> 
<p><b>3 校長住宅</b></p> <p>外壁 ・東面サイディン グに穴</p> 	<p><b>7 教頭住宅</b></p> <p>外壁 ・塗装の剥がれ</p> 
<p><b>4 校長住宅</b></p> <p>屋根 ・概ね良好</p> 	<p><b>8 教頭住宅</b></p> <p>屋根 ・概ね良好</p> 

⑧南幌中学校

劣化状況評価

8 南幌中学校

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
14	校長住宅	木造モルタル	86	H3	29	75	B	B	B	B	B
15	教頭住宅	木造モルタル	86	H3	29	75	B	B	B	B	B



【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 校長住宅</b> 外壁 ・基礎にひび割れ</p> 	<p><b>5 教頭住宅</b> 外壁 ・基礎にひび割れ</p> 
<p><b>2 校長住宅</b> 外壁 ・ひび割れ</p> 	<p><b>6 教頭住宅</b> 外壁 ・ひび割れ</p> 
<p><b>3 校長住宅</b> 外壁 ・玄関柱脚ALC欠け</p> 	<p><b>7 教頭住宅</b> 外壁 ・玄関踏み台破損</p> 
<p><b>4 校長住宅</b> 屋根 ・煙突ヒビ多数</p> 	<p><b>8 教頭住宅</b> 屋根 ・煙突ヒビ多数</p> 

⑨町立学校給食センター

劣化状況評価

9 町立学校給食センター

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
16	給食センター	RC	696	H4	28	65	B	C	B	B	B



【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 外壁</b> ・全体的に塗装剥がれ</p>		<p><b>5 その他</b> ・地盤に亀裂</p>	
<p><b>2 外壁</b> ・ひび割れと剥落</p>		<p><b>6 屋上</b> ・コケ点在</p>	
<p><b>3 外壁</b> ・著しいひび割れと錆</p>		<p><b>7 屋上</b> ・ルーフトレンド破損</p>	
<p><b>4 外壁</b> ・多数のひび割れ</p>		<p><b>8 屋上</b> ・保護層破損</p>	

# ⑩生涯学習センターぼろろ

## 劣化状況評価

### 10 生涯学習センターぼろろ

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
17	本館	RC	3,769	S48	47	81	B	B	B	A	A
18	本館(増築)	鉄骨造/UP	198	H4	28	93	A	B	A	A	A
19	多目的ホール	S	879	S48	47	65	B	B	C	B	A



### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 本館</b> 外壁 ・基礎広範囲にひび割れ、白垂</p> 	<p><b>5 本館(増築)</b> 内部 ・廊下壁面にひび割れ</p> 
<p><b>2 本館</b> 屋根・屋上 ・概ね良好</p> 	<p><b>6 多目的ホール</b> 外壁 ・接合部の大きなひび割れ</p> 
<p><b>3 本館</b> 内部 ・天井ひび割れ、雨漏り痕</p> 	<p><b>7 多目的ホール</b> 屋根 ・一部塗りはげ</p> 
<p><b>4 本館(増築)</b> 外壁 ・歪み、錆、塗装の剥がれ</p> 	<p><b>8 多目的ホール</b> 内部 ・天井鉄骨広範囲に錆</p> 

⑪ 農村環境改善センター

劣化状況評価

11 農村環境改善センター

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
20	農村環境改善センター	S	1,984	S57	38	75	D	C	A	A	A



【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 外壁</b> ・基礎のひび割れ、剥落</p>		<p><b>5 屋上</b> ・コケ点在</p>	
<p><b>2 外壁</b> ・基礎のひび割れ、剥落</p>		<p><b>6 屋上</b> ・一部変色</p>	
<p><b>3 外壁</b> ・ひび割れ</p>		<p><b>7 屋上</b> ・一部腐食</p>	
<p><b>4 外壁</b> ・ひび割れ、白垂</p>		<p><b>8 内部</b> ・階段 雪解け時雨漏り</p>	

## ⑫三重レークハウス

### 劣化状況評価

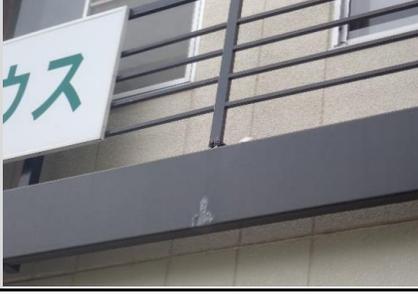
#### 12 三重レークハウス

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
21	管理棟	S	402	S57	38	87	A	B	A	B	B

#### 施設全景



#### 【施設の主な劣化状況】

<p><b>1 外壁</b> ・基礎のひび割れ</p>		<p><b>5 屋根</b> ・概ね良好</p>	
<p><b>2 外壁</b> ・塗装剥離</p>		<p><b>6 屋根</b> ・概ね良好</p>	
<p><b>3 外壁</b> ・北側外階段ひび割れ、白垂</p>		<p><b>7 内部</b> ・器具室外ドア下部に隙間</p>	
<p><b>4 外壁</b> ・南面2F手すり錆、一部破損</p>		<p><b>8 内部</b> ・ドア破損</p>	

## 第4章 教育施設整備の基本的な方針等

### 1 教育施設の規模・配置計画等の方針

#### (1) 教育施設長寿命化の基本方針

上位計画である南幌町公共施設等総合管理計画の方針を基に、教育施設長寿命化の基本的な方針を定めることとします。

#### ①教育施設全体の基本方針

南幌町公共施設等総合管理計画で示された管理方針に基づき、以下を基本方針とします。

- 快適な学校教育・社会教育環境の整備の視点から、教育施設の維持管理及び機能充実を図ります。
- 定期的な点検や修繕による予防保全に努めるとともに、計画的な機能改善による施設の長寿命化を推進します。
- 施設の劣化状況、利用状況、運営状況等を踏まえた、幅広い整備方針を検討します。

#### ②学校施設の目指すべき姿に沿った基本方針

学校施設については、上記に加え「学校施設の目指すべき姿」を踏まえた基本的な方針を定めることとします。

##### a.安全性

小中学校は災害などが起こった際の避難所となるため、構造躯体や建物本体（外壁、屋上・屋根、内部仕上げ等）、各種設備などの長寿命化や老朽改修を行う必要があります。そのため、計画的な長寿命化改修や老朽改修、エコ改修などを行い安全性の確保を図るとともに防災機能の向上を図り、安全・安心な学校施設を目指します。

##### 【主な内容】

建物の劣化（老朽化）対策：長寿命化改修、老朽改修、エコ改修  
防災・防犯対策：防災拠点としての防災備蓄の整備、自家発電設備の整備、  
防犯カメラや外灯の設置 等

##### b.快適性

学習能率の向上を図るための快適な学習環境（ICT教育環境整備等）を整備するとともに、児童・生徒や地域の人々が愛着を持ち、誰もが訪れやすいようにバリアフリーにも配慮された空間を目指します。

また、教職員にも配慮した空間とし、事務負担軽減など校務の情報化に必要な ICT 環境を整備します。

【主な内容】

ICT 教育環境の整備、バリアフリー対応、給排水設備・衛生設備・空調設備等の設備更新、改修 等

**c.学習活動への適応性**

子どもたちの主体性を養う空間の充実を図るための環境を整備するとともに、効果的・効率的な学習施設としての ICT 環境の整備を図ります。

【主な内容】

ICT 教育環境の整備、課外学習や出前授業等に対応できる教育環境の整備 等

**d.環境への適応性**

地球環境問題への関心を高めるため、エコ改修によるエコスクール化など環境を考慮した学校施設等の整備を図ります。

【主な内容】

室内環境の改善（音・温熱・室内空気環境など）、エコ改修による LED 照明の導入、地球環境（温暖化）・周辺環境（景観・日照など）への配慮

**e.地域の拠点化**

地域の拠点として、安全で安心な学校施設で地域に開かれた学校とするための環境整備を図ります。

【主な内容】

校庭の開放、図書室の開放、教室等開放、体育館開放、地域団体との連携 等

表 4-1 公共施設等総合管理計画と本計画（学校施設の基本的な方針）の対応関係

公共施設等総合管理計画	教育施設長寿命化計画 (学校施設の基本的な方針)
<p><b>公共施設等の管理に関する方針</b></p> <p>①公共施設（建築物）の維持管理の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設（建築物）の維持管理及び改修・更新は、建設時から経過した年月によって、点検・診断、耐震化、改修・修繕、長寿命化、更新の実施方針を整理</li> <li>建築物以外の屋外施設については、適切な点検・診断等により効率的な維持管理に努める。</li> </ul> <p>③安全確保の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点検の結果、危険性が認められた施設については、施設の利用状況や優先度を踏まえ計画的な改修、解体・撤去を検討し、対応する。</li> <li>今後利用見込みのない施設については、周辺環境への影響を考慮し、解体、除去するなどの対策を講じ、安全性の確保を図る。</li> </ul> <p>④長寿命化の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も保持していく必要がある施設については、定期的な点検や修繕による予防保全に努めるとともに、計画的な機能改善による施設の長寿命化を推進する。</li> <li>全庁的な観点から、他の計画と整合を図りながら、公共施設マネジメント全体として推進する。</li> </ul> <p>⑤統合や廃止の推進方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の整備状況、利用状況、運営状況、費用の状況等を踏まえ、必要に応じて公共施設等の統合・廃止や規模縮小等を検討する。</li> <li>施設特性を考慮した町全体及び地区を対象とするサービス（機能）に対応する施設の維持・効率化等の検討を推進する。</li> </ul> <p><b>施設類型ごとの基本方針</b></p> <p>(7) 学校教育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の整備と快適な学校生活の視点で、施設管理を進める。</li> <li>施設管理については、予防保全の考え方を導入しながら、事前に建物の点検等を強化し、施設の長寿命化に努める。</li> </ul>	<p><b>教育施設全体の基本方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>快適な学校教育・社会教育環境の整備の視点から、教育施設の維持管理及び機能充実を図ります。</li> <li>定期的な点検や修繕による予防保全に努めるとともに、計画的な機能改善による施設の長寿命化を推進します。</li> <li>施設の劣化状況、利用状況、運営状況等を踏まえた、幅広い整備方針を検討します。</li> </ul> <p><b>a.安全性</b></p> <p>小中学校は災害などが起こった際の避難所となるため、構造躯体や建物本体（外壁、屋上・屋根、内部仕上げ等）、各種設備などの長寿命化や老朽改修を行う必要があります。そのため、計画的な長寿命化改修や老朽改修、エコ改修などを行い安全性の確保を図るとともに防災機能の向上を図り、安心・安全な教育施設を目指します。</p> <p><b>b.快適性</b></p> <p>学習能率の向上を図るための快適な学習環境（ICT 教育環境整備等）を整備するとともに、児童・生徒や地域の人々が愛着を持ち、誰もが訪れやすいようにバリアフリーにも配慮された空間を目指します。</p> <p>また、教職員にも配慮した空間とし、事務負担軽減など校務の情報化に必要な ICT 環境を整備します。</p> <p><b>c.学習活動への適応性</b></p> <p>子どもたちの主体性を養う空間の充実を図るための環境を整備するとともに、効果的・効率的な学習施設としての ICT 環境の整備を図ります。</p> <p><b>d.環境への適応性</b></p> <p>地球環境問題への関心を高めるため、エコ改修によるエコスクール化など環境を考慮した教育施設の整備を図ります。</p> <p><b>e.地域の拠点化</b></p> <p>地域の拠点として、安全で安心な教育施設で地域に開かれた学校とするための環境整備を図ります。</p>

## (2) 教育施設の整備・配置方針

教育施設の整備・配置方針は、教育施設の実態を踏まえて設定します。

### 南幌町の教育施設の実態

- ・人口減少と少子高齢化の進行による将来的な利用者減少の可能性
- ・教員住宅、町営野球場、南幌中学校及び学校給食センターが3m未満の浸水想定区域内に立地
- ・南幌中学校、生涯学習センターぼろろ及び町営野球場が築40年を経過（延床面積割合約34%）
- ・施設整備費を除く施設関連経費の直近5箇年平均は、スポーツセンター、生涯学習センターぼろろ及び農村環境改善センターの3施設で対象施設の約6割
- ・現在の劣化状況評価結果では、屋根・屋上でスポーツセンター及び南幌中学校（屋体）がDランク、外壁で町営野球場（本部席）がDランク

今後の教育施設の整備・配置方針を検討するうえでは、施設の老朽度や維持管理等の運営に掛かるコスト、施設が浸水等の危険な箇所に該当していないか、施設の利用状況等、様々な視点から評価していく必要があります。

そのため、以下の客観的な視点により項目ごとの指標を定めて評価分析を行いながら、施設ごとの整備・配置方針を選定します。

### 教育施設の整備・配置方針

#### ■立地・利用視点

- ・ハザードマップ等からの施設立地状況や、施設利用状況を踏まえた、立地・利用視点での施設評価を行い、管理方針を定めます。

#### ■管理視点

- ・現時点における劣化状況や、築年数、維持管理経費状況を踏まえた、管理視点での施設評価を行い、整備方針を定めます。

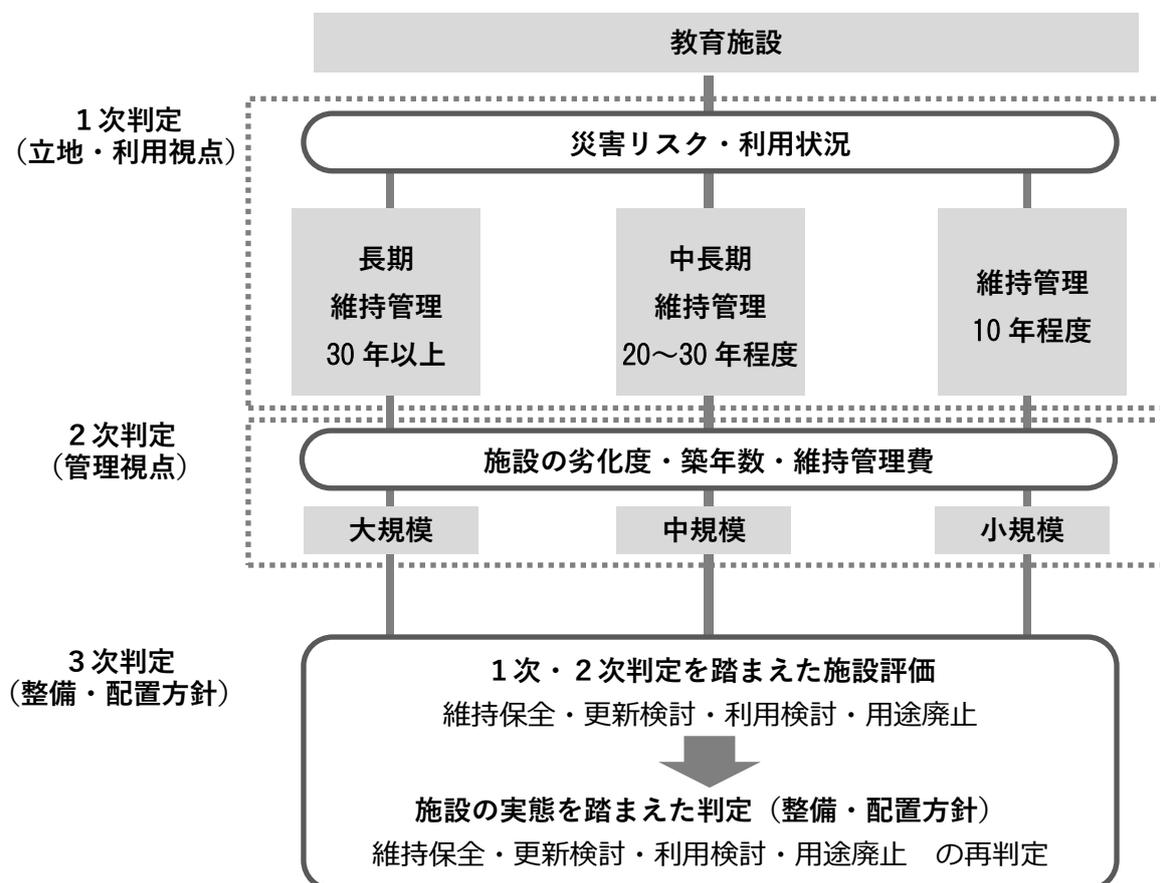
#### ■上記の視点等を踏まえた整備・配置方針

- ・上記の2つの視点を踏まえた、施設別の長期的な管理見通しと、町内における施設用途の必要性・実態等を踏まえた施設別の整備・配置方針を定めます。

## 2 教育施設の整備・配置方針に関する選定

各教育施設の今後の整備・配置方針は、以下のフロー図に沿って1次～3次判定を行い選定します。

図 4-1 整備・配置方針選定フロー



## (1) 1次判定（立地・利用視点）

1次判定では、施設が立地している場所の災害リスク及び利用状況をそれぞれ点数化し、点数によって、「長期維持管理」（30年以上活用を図る施設）、「中長期維持管理」（20～30年程度の活用を図る施設）、「維持管理」（概ね10年間は施設を維持する施設）の3つに判定します。

### ① 評価項目・指標

#### a. 災害リスク

施設の立地場所の浸水想定状況に応じて、0点（リスク低）～2点（リスク高）まで評価します。

浸水想定	点数
0.5m未満	0点
3.0m未満	1点
3.0m以上	2点

#### b. 利用状況

平成27年度<sup>※</sup>と令和元年度の年間利用数（利用者数・入居率等）の増減率に応じて、0点（利用増）～2点（利用減）まで評価します。

※町民プールは平成28年度

R1/H27 利用数増減率	点数
100%以上	0点
90～100%未満	1点
80～90%未満	2点
80%未満	3点

### ② 判定結果

上記の2指標の評価結果の合計点数から、「長期維持管理」（30年以上活用を図る施設）、「中長期維持管理」（20～30年程度の活用を図る施設）、「維持管理」（概ね10年間は施設を維持する施設）の3つに判定します。

1次判定結果	点数
長期維持管理	0～1点
中長期維持管理	2～3点
維持管理	4～5点

表 4-2 1 次判定結果

施設類型	施設名 (建物名)	延床面積 (㎡)	建設年度	構造	1 次判定 (校長・教頭住宅を除き、同一施設は同一値)							判定結果
					立地・利用視点							
					浸水想定	災害リスク 点数	H27 利用状況 (人、食)	R1 利用状況 (人、食)	R1/H27 増減率	利用状況 点数		
1 公営住宅等	教員住宅	1,020.15	H7	RC	3.0m未満	1	91.7%	75.0%	81.8%	2	中長期維持管理	
2 公営住宅等	教員住宅 (受水槽)	29.06	H7	CB	3.0m未満	1	91.7%	75.0%	81.8%	2	中長期維持管理	
3 スポーツ・観光施設	スポーツセンター	3,658.34	H4	RC	0.5m未満	0	51,342	53,466	104.1%	0	長期維持管理	
4 スポーツ・観光施設	町民プール	1,063.99	H27	木造	0.5m未満	0	8,797	8,656	98.4%	1	長期維持管理	
5 スポーツ・観光施設	町営野球場	37.50	S53	非木造	3.0m未満	1	3,615	1,824	50.5%	3	維持管理	
6 学校教育施設	南幌小学校 (校舎)	7,916.25	H7	RC	0.5m未満	0	300	277	92.3%	1	長期維持管理	
7 学校教育施設	南幌小学校 (屋体)	1,573.64	H7	SRC	0.5m未満	0	300	277	92.3%	1	長期維持管理	
8 学校教育施設	南幌小学校 (用具室&トイレ)	58.85	H7	CB	0.5m未満	0	300	277	92.3%	1	長期維持管理	
9 学校教育施設	南幌小学校 (温室)	56.70	H7	軽量鉄骨	0.5m未満	0	300	277	92.3%	1	長期維持管理	
10 学校教育施設	南幌中学校 (校舎)	4,040.60	S44	RC	3.0m未満	1	189	164	86.8%	2	中長期維持管理	
11 学校教育施設	南幌中学校 (屋体)	999.20	S44	S	3.0m未満	1	189	164	86.8%	2	中長期維持管理	
12 学校教育施設	南幌小学校 (校長住宅)	86.12	H7	木造	0.5m未満	0	100.0%	100.0%	100.0%	0	長期維持管理	
13 学校教育施設	南幌小学校 (教頭住宅)	86.12	H7	木造	0.5m未満	0	100.0%	100.0%	100.0%	0	長期維持管理	
14 学校教育施設	南幌中学校 (校長住宅)	86.12	H3	木造	3.0m未満	1	100.0%	100.0%	100.0%	0	長期維持管理	
15 学校教育施設	南幌中学校 (教頭住宅)	86.12	H3	木造	3.0m未満	1	100.0%	100.0%	100.0%	0	長期維持管理	
16 学校教育施設	町立学校給食センター	696.14	H4	RC	3.0m未満	1	106,250	88,523	83.3%	2	中長期維持管理	
17 社会教育施設	生涯学習センターぼろろ (本館)	3,769.39	S48	RC	0.5m未満	0	28,937	26,209	90.6%	1	長期維持管理	
18 社会教育施設	生涯学習センターぼろろ (本館 (増築))	197.74	H4	7°WJ*	0.5m未満	0	28,937	26,209	90.6%	1	長期維持管理	
19 社会教育施設	生涯学習センターぼろろ (多目的ホール)	879.32	S48	S	0.5m未満	0	28,937	26,209	90.6%	1	長期維持管理	
20 社会教育施設	農村環境改善センター	1,984.13	S57	S	0.5m未満	0	18,074	19,542	108.1%	0	長期維持管理	
21 社会教育施設	三重レークハウス (管理棟)	402.00	S57	S	0.5m未満	0	6,035	8,796	145.7%	0	長期維持管理	

## (2) 2次判定 (管理視点)

2次判定では、施設の劣化度や築年数、維持管理費をそれぞれ点数化し、点数によって、施設の改修規模の必要性を「小規模」、「中規模」、「大規模」の3つに判定します。

### ① 評価項目・指標

#### a. 劣化度

施設の劣化状況等の評価結果（健全度）に応じて、0点（劣化少）～3点（劣化多）まで評価します。

劣化度（健全度）	点数
90以上	0点
70～90	1点
60～70	2点
60未満	3点

#### b. 築年数

令和2年度現在の築年数に応じて、0点（新しい）～2点（古い）まで評価します。

築年数	点数
30年未満	0点
30～50年未満	1点
50年以上	2点

#### c. 維持管理費

平成27年度から令和元年度まで直近5箇年の平均維持管理費\*に応じて、0点（費用少）～2点（費用多）までの評価をします。

維持管理費	点数
5,000千円未満	0点
5,000～10,000千円未満	1点
10,000千円以上	2点

\*施設関連経費のうち、その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費・委託費の年間合計額の5箇年平均（町民プールは4年（H28-R1）平均）

### ② 判定結果

上記の3指標の評価結果の合計点数から、「小規模」（小規模な修繕等に対応可能な施設）、「中規模」（中規模な改修が必要とされる施設）、「大規模」（比較的大規模な改修が必要とされる施設）の3つに判定します。

2次判定結果	点数
小規模	0～1点
中規模	2～4点
大規模	5～7点

表 4-3 2次判定結果

施設類型	施設名(建物名)	延床面積 (㎡)	建設年度	構造	2次判定(平均維持管理費は、校長・教頭住宅を除き、同一施設は同一値)					判定結果	
					管理視点						
					健全度	劣化度点数	築年数	築年数点数	平均維持 管理費※ (千円)		維持管理費 点数
1	公営住宅等	1,020.15	H7	RC	77	1	25	0	448	0	小規模
2	公営住宅等	29.06	H7	CB	84	1	25	0	448	0	小規模
3	スポーツ・観光施設	3,658.34	H4	RC	59	3	28	0	11,020	2	大規模
4	スポーツ・観光施設	1,063.99	H27	木造	100	0	5	0	8,749	1	小規模
5	スポーツ・観光施設	37.50	S53	非木造	37	3	42	1	1,163	1	大規模
6	学校教育施設	7,916.25	H7	RC	72	1	25	0	7,978	1	中規模
7	学校教育施設	1,573.64	H7	SRC	89	1	25	0	7,978	1	中規模
8	学校教育施設	58.85	H7	CB	65	2	25	0	7,978	1	中規模
9	学校教育施設	56.70	H7	軽量鉄骨	82	1	25	0	7,978	1	中規模
10	学校教育施設	4,040.60	S44	RC	73	1	51	2	6,067	1	中規模
11	学校教育施設	999.20	S44	S	68	2	51	2	6,067	1	大規模
12	学校教育施設	86.12	H7	木造	84	1	25	0	40	0	小規模
13	学校教育施設	86.12	H7	木造	77	1	25	0	40	0	小規模
14	学校教育施設	86.12	H3	木造	75	1	29	0	23	0	小規模
15	学校教育施設	86.12	H3	木造	75	1	29	0	43	0	小規模
16	学校教育施設	696.14	H4	RC	65	2	28	0	6,850	1	中規模
17	社会教育施設	3,769.39	S48	RC	81	1	47	1	16,427	2	中規模
18	社会教育施設	197.74	H4	7°/11°	93	0	28	0	16,427	2	中規模
19	社会教育施設	879.32	S48	S	65	2	49	1	16,427	2	大規模
20	社会教育施設	1,984.13	S57	S	75	1	38	1	16,950	2	中規模
21	社会教育施設	402.00	S57	S	87	1	38	1	2,311	1	中規模

### (3) 3次判定（整備・活用方針）

3次判定では、1次判定・2次判定結果を踏まえて、以下に示す施設評価の考え方に沿って施設を「維持保全」、「更新検討」、「利用検討」、「用途廃止」の4つに分類し評価した上で、施設の位置づけ等の実態を踏まえて、整備・活用方針を定めます。

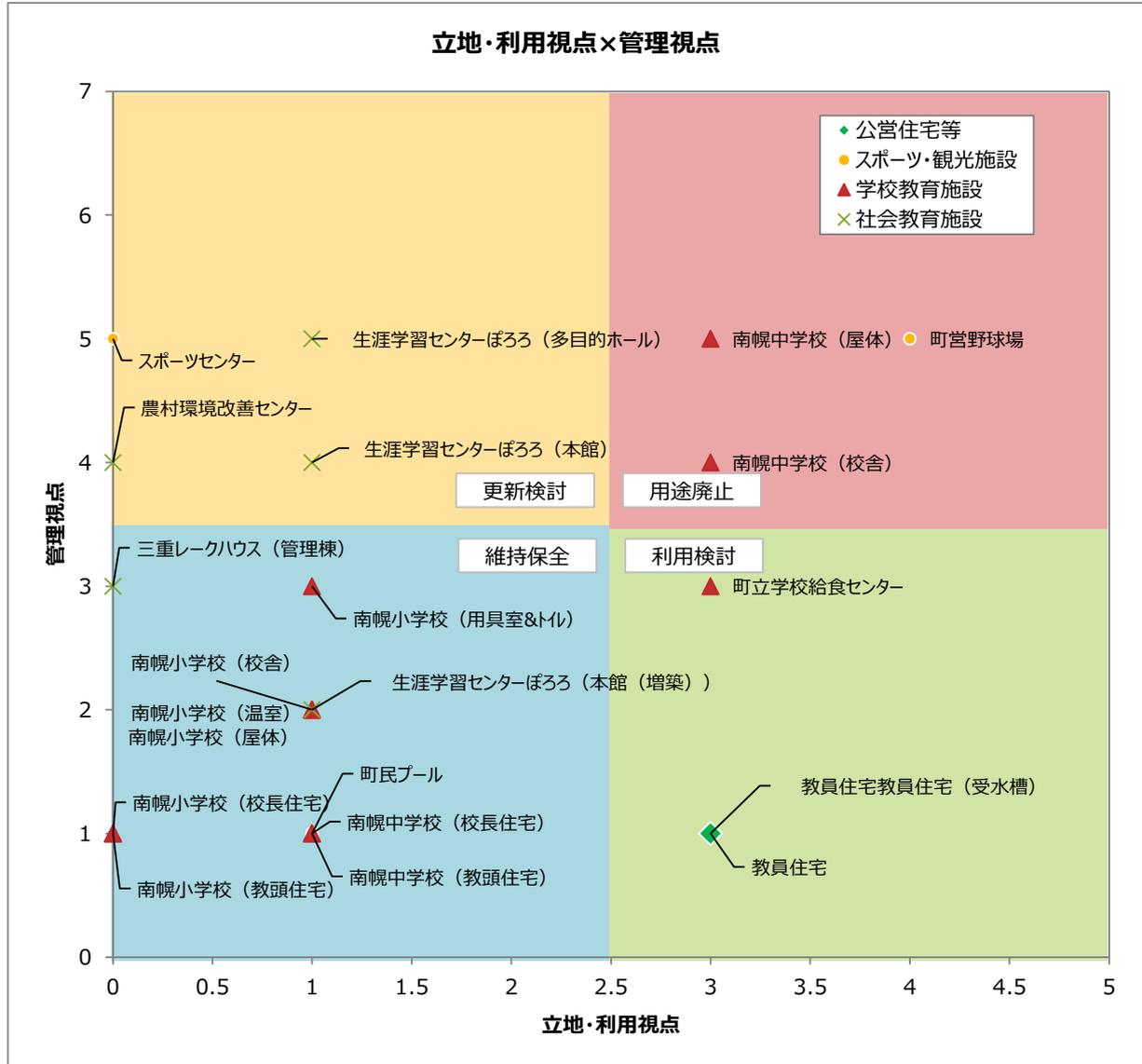
#### ① 1次判定・2次判定結果を踏まえた評価分類

「立地・利用視点」と「管理視点」の二つの視点からの評価結果（点数）を分析し、「維持保全」、「更新検討」、「利用検討」、「用途廃止」の大きく4つに分類します。

評価分類	分類された施設の特徴
維持保全	施設の状態がよく、維持管理費も少ない。また、災害リスクも低く、利用者が多い施設群。
更新検討	施設が劣化しており、維持管理費も多くかかっている施設だが、災害リスクも低く、利用者が多い施設群。
利用検討	施設の状態がよく、維持管理費も少ない。しかし、災害リスクが高く、利用者も少ない施設群。
用途廃止	施設が劣化しており、維持管理費も多い。また、災害リスクが高く、利用者も少ない施設群。

## ②施設評価結果

図 4-2 1次判定・2次判定結果を踏まえた施設評価結果



評価	建物数	構成比
維持保全	11	52.4%
更新検討	4	19.0%
利用検討	3	14.3%
用途廃止	3	14.3%
合計	21	100.0%

更新検討			用途廃止		
立地・利用者視点	管理視点		立地・利用者視点	管理視点	
災害リスク 低	劣化度 大		災害リスク 高	劣化度 大	
利用者 多	築年数 古		利用者 少	築年数 古	
	維持管理費 多			維持管理費 多	

維持保全			利用検討		
立地・利用者視点	管理視点		立地・利用者視点	管理視点	
災害リスク 低	劣化度 小		災害リスク 高	劣化度 小	
利用者 多	築年数 新		利用者 少	築年数 新	
	維持管理費 少			維持管理費 少	

## ③ 整備・活用方針

1次判定・2次判定結果を踏まえた施設評価結果をもとに、施設の位置づけ等の実態を踏まえて、整備・活用方針を定めます。

表 4-4 整備・活用方針（3次判定結果）

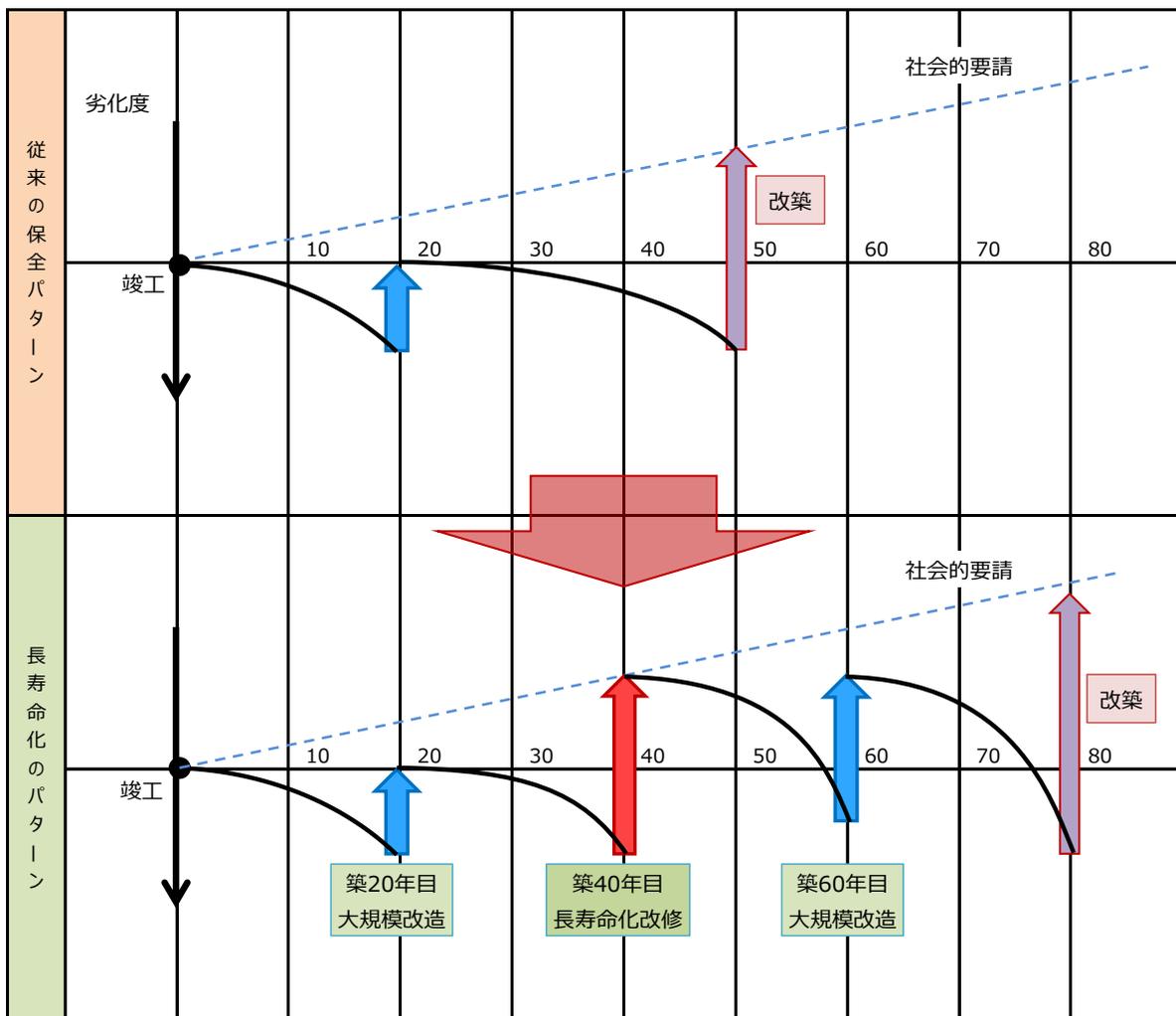
施設類型	施設名（建物名）	延床面積 (㎡)	建設年度	構造	3次判定				判定結果
					整備・配置方針				
					1次判定結果	2次判定結果	施設評価	施設の実態	
1 公営住宅等	教員住宅	1,020.15	H7	RC	中長期維持管理	小規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
2 公営住宅等	教員住宅（受水槽）	29.06	H7	CB	中長期維持管理	小規模	利用検討		維持保全
3 スポーツ・観光施設	スポーツセンター	3,658.34	H4	RC	長期維持管理	大規模	更新検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
4 スポーツ・観光施設	町民アール	1,063.99	H27	木造	長期維持管理	小規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全
5 スポーツ・観光施設	町営野球場	37.50	S53	非木造	維持管理	大規模	用途廃止	当面は継続的に利用するが、廃止・移転等を検討する。	利用検討
6 学校教育施設	南幌小学校（校舎）	7,916.25	H7	RC	長期維持管理	中規模	維持保全		維持保全
7 学校教育施設	南幌小学校（屋体）	1,573.64	H7	SRC	長期維持管理	中規模	維持保全		維持保全
8 学校教育施設	南幌小学校（用具室&t14）	58.85	H7	CB	長期維持管理	中規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全
9 学校教育施設	南幌小学校（温室）	56.70	H7	軽量鉄骨	長期維持管理	中規模	維持保全		維持保全
10 学校教育施設	南幌中学校（校舎）	4,040.60	S44	RC	中長期維持管理	中規模	用途廃止	町内唯一の施設であることから、適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
11 学校教育施設	南幌中学校（屋体）	999.20	S44	S	中長期維持管理	大規模	用途廃止		維持保全
12 学校教育施設	南幌小学校（校長住宅）	86.12	H7	木造	長期維持管理	小規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全
13 学校教育施設	南幌小学校（教頭住宅）	86.12	H7	木造	長期維持管理	小規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全
14 学校教育施設	南幌中学校（校長住宅）	86.12	H3	木造	長期維持管理	小規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全
15 学校教育施設	南幌中学校（教頭住宅）	86.12	H3	木造	長期維持管理	小規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全
16 学校教育施設	町立学校給食センター	696.14	H4	RC	中長期維持管理	中規模	利用検討	町内唯一の施設であることから、適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
17 社会教育施設	生涯学習センター-ぼろろ（本館）	3,769.39	S48	RC	長期維持管理	中規模	更新検討		更新検討
18 社会教育施設	生涯学習センター-ぼろろ（本館（増築））	197.74	H4	7'14"	長期維持管理	中規模	維持保全	今後30年間で更新・複合化等幅広い検討を行う。	更新検討
19 社会教育施設	生涯学習センター-ぼろろ（多目的ホール）	879.32	S48	S	長期維持管理	大規模	更新検討		更新検討
20 社会教育施設	農村環境改善センター	1,984.13	S57	S	長期維持管理	中規模	更新検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
21 社会教育施設	三重レークハウス（管理棟）	402.00	S57	S	長期維持管理	中規模	維持保全	長寿命化による維持保全を基本とする。	維持保全

### 3 改修等の基本的な方針

#### (1) 長寿命化の方針

今後は、従来の改築を基本とする施設の更新から、長寿命化改修により使用年数の長期化を図ります。以下に従来の保全パターンから長寿命化のパターンへの転換イメージを示します。原則として、大規模改造は20年、長寿命化改修は40年と設定します。

図 4-3 「従来の保全パターン」から「長寿命化のパターン」への転換



## (2) 目標使用年数、改修周期の設定

例えば、鉄筋コンクリート造の学校施設の法定耐用年数は47年となっていますが、これは税務上、減価償却費を算定するためのものであり、物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされコンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能です。

これらを踏まえ、今後は施設の寿命が続く限りにおいて、既存施設を有効活用します。そのため、施設の目標使用年数は概ね70～80年と設定し、長寿命化改修の周期を築後40～50年、大規模改造の周期を20年間隔と設定することとします。

ただし、鉄骨造及び木造の場合は、建物の経年に伴う構造部材の劣化と非構造部材等の劣化が問題となります。構造部分の劣化は、構造性能の低下に直接結びつき、一方、仕上げなどの非構造部分および設備部分における劣化は、当該部材の脱落などの直接的な危険要因となる場合や防水性能の低下など他の部位の劣化を促進し間接的な危険要因となる場合があります。

長寿命化改修に適するかどうかは、目視調査や今後の活用方針を考慮し評価する必要があります。

表 4-5 目標使用年数、改修周期の設定

	使用年数・改修周期
目標使用年数	70～80年
大規模改造の周期	20年
長寿命化改修の周期	40～50年

### (参考) 学校や体育館の法定耐用年数

	法定耐用年数
鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造	47年
鉄骨造	19～34年※
れんが・石・ブロック造	38年
木造	22年

※骨格材の肉厚により異なる

### (3) 今後の維持更新コストの比較

#### 【維持管理コスト算定条件】

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)は、長寿命化のイメージに基づくものであり、建物情報一覧表の試算上の区分(長寿命、改築)により更新周期を設定するとともに、躯体以外の劣化状況(A・B・C・D評価)を直近の修繕費に反映して算出します。

#### ■コスト算出の考え方

- ・築年数に応じた時期に、現状と同じ延床面積で改築・改修を行うものと設定
- ・改築、長寿命化改修は2年に工事費を均等配分、大規模改造は単年度で計上
- ・改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、今後10年以内にそれらを実施するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
- ・長寿命化改修の実施が可能かどうかを建物毎に判定し、改修周期を設定
  - ①長寿命化可能な建物(試算上の区分が「長寿命」の建物)は、築40年に長寿命化改修、築20年、築60年に大規模改造、築80年に改築すると設定
  - ②長寿命化可能な建物で、基準年時点で築40年を超えている建物は、今後10年以内に長寿命化改修を実施すると設定
  - ③長寿命化改修が実施できない建物(試算上の区分が「要調査」「改築」または未記入の建物)は、長寿命化改修を実施せずに改築(改築までは20年周期で大規模改造を実施)すると設定
- ・今後5年以内にD評価の部位の修繕を、今後10年以内にC評価の部位の修繕を実施すると設定。ただし、改築、長寿命化改修、大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く
- ・今後10年間に長寿命化改修を実施する建物は、長寿命化改修費からA評価の部位修繕相当額を差し引く
- ・プール、グラウンド及び共用設備(受変電、自家発、受水、排水)等は、必要に応じて別途、費用を計上(「その他施設整備費」欄に記入された金額を基にグラフを作成する。)

維持更新コストの単価設定表

円/㎡

	学校		体育館		住宅		事務所・集会場		その他	
改築	100%	330,000	100%	360,000	100%	280,000	100%	400,000	100%	360,000
長寿命化改修	60%	198,000	60%	216,000	60%	168,000	60%	240,000	60%	216,000
大規模改造	25%	82,500	22%	79,200	25%	70,000	25%	100,000	25%	90,000

※単価は公共施設等総合管理計画の施設類型別の単価を使用

基準年度 2020 試算期間：基準年度の翌年度から40年間

#### コスト試算条件

	従来型		長寿命化型		備考
	周期	工事期間	周期	工事期間	
改築	50年	2年	80年	2年	*実施年数より古い建物の改築を10年以内に実施
長寿命化改修	-	-	40年	2年	*実施年数より古い建物の改修を10年以内に実施
大規模改造	20年	1年	20年	1年	*大規模改造は改築、長寿命改修の前後10年以内は実施しない

#### 部位修繕

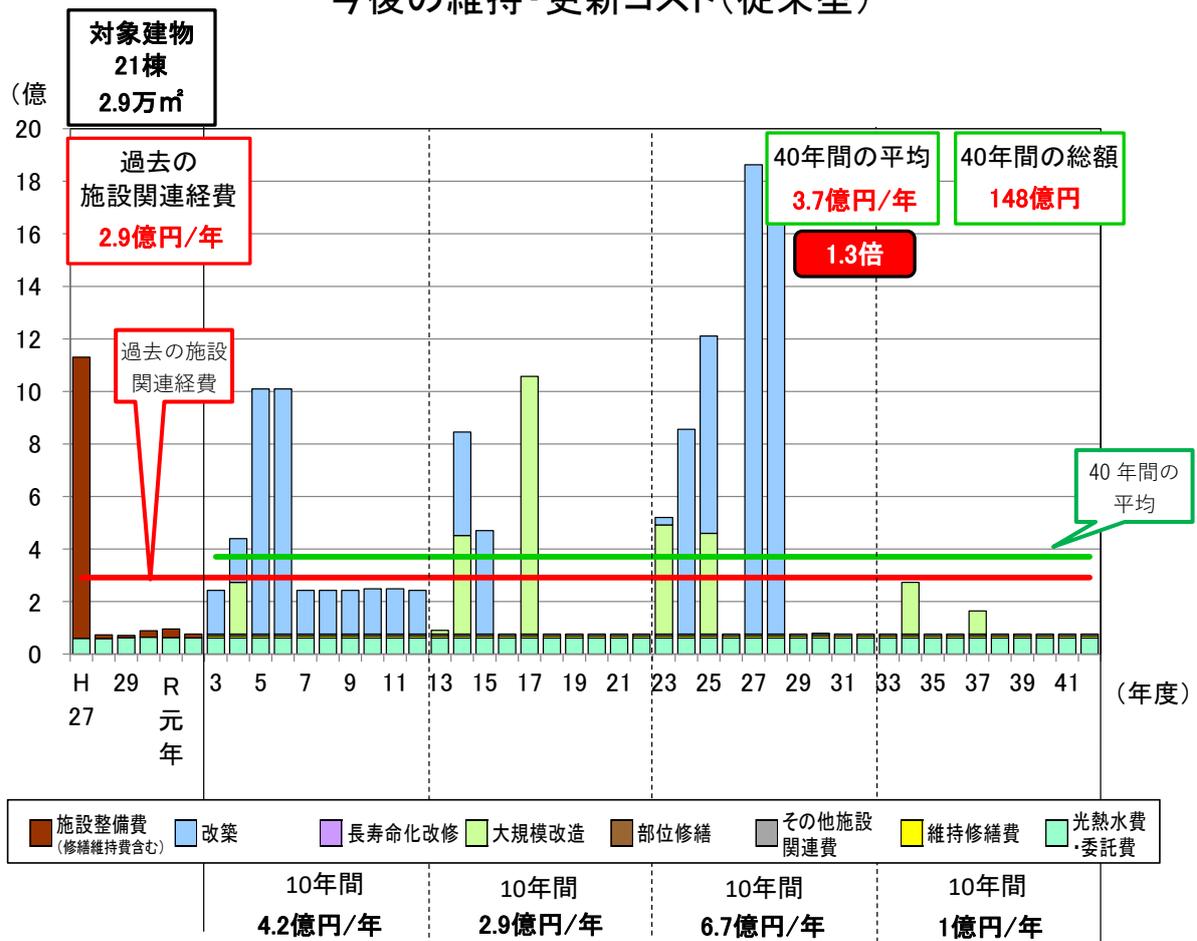
評価	試算条件	
D評価	今後5年以内に部位修繕を実施	ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後
C評価	今後10年以内に部位修繕を実施	10年以内に実施する場合を除く
A評価	今後10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く	

### ①従来型の維持・更新コスト

今後も従来のように、法定耐用年数に沿った改築中心の建替事業を行っていくと、今後 40 年間で約 148 億円の費用が掛かり、年間の平均費用にすると約 3.7 億円/年で、直近 5 箇年の施設関連経費の約 1.3 倍となることが想定されます。

下図をみると、今後 10 年間に多額の改築費用が見込まれ、平均費用は約 4.2 億円/年、直近 5 箇年の施設関連経費の約 1.4 倍になります。また、年度によっては 15 億円を超える費用が発生しています。

### 今後の維持・更新コスト(従来型)



## ②長寿命化型の維持・更新コスト

今後、従来型の改築中心の建替事業から、長寿命化型の改修を行い、施設の長寿命化を図っていくと、40年間で約145億円の費用が掛かり、平均費用は約3.6億円/年で、直近5箇年の施設関連経費の約1.2倍となることが想定されますが、従来型と比べ約0.1億円/年の削減が見込まれます。

下図をみると、施設の長寿命化を図った場合においても、今後40年間で更新時期を迎えることから、従来型と同等の費用が見込まれています。しかしながら、今後10年間においては、長寿命化改修による費用が見込まれるものの従来型に比べコストの抑制が見込まれ、平均費用で約0.9億円/年の削減となっています。

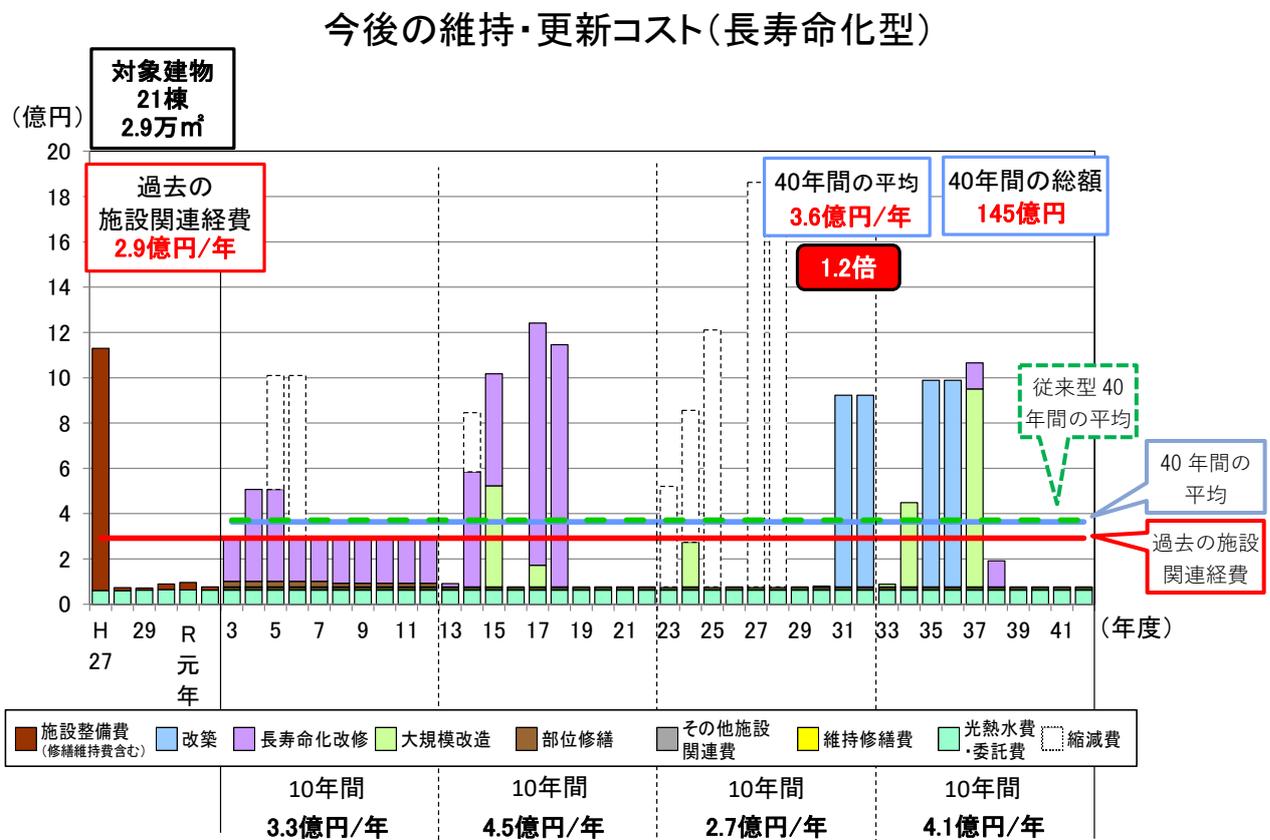


表 4-6 今後の維持・更新コストの比較

	条件	過去の施設関連経費	今後10年間の平均	今後40年間の平均	今後40年間の総額
従来型	更新周期：50年 改修周期：20年	約2.9億円/年	約4.2億円/年	約3.7億円/年	約148億円
長寿命化型	更新周期：80年 改修周期：20年(大規模改造) ：40年(長寿命化改修)		約3.3億円/年	約3.6億円/年	約145億円

#### 4 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

改修工事の実施にあたっては、教育施設の老朽化状況の実態を踏まえ、構造体の長寿命化や設備等の更新によって建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や ICT 化など多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、社会的要請や教育活動の将来展望に応えることのできる改修を目指します。

特に、学校施設改修の整備水準は、「学校施設の目指すべき姿」を踏まえ、施設の基本的性能の向上を図るとともに、省エネやバリアフリー、防災・防犯などの機能及び性能の向上を目指し、建物の整備レベルの統一を図ります。

表 4-7 学校施設整備水準の例

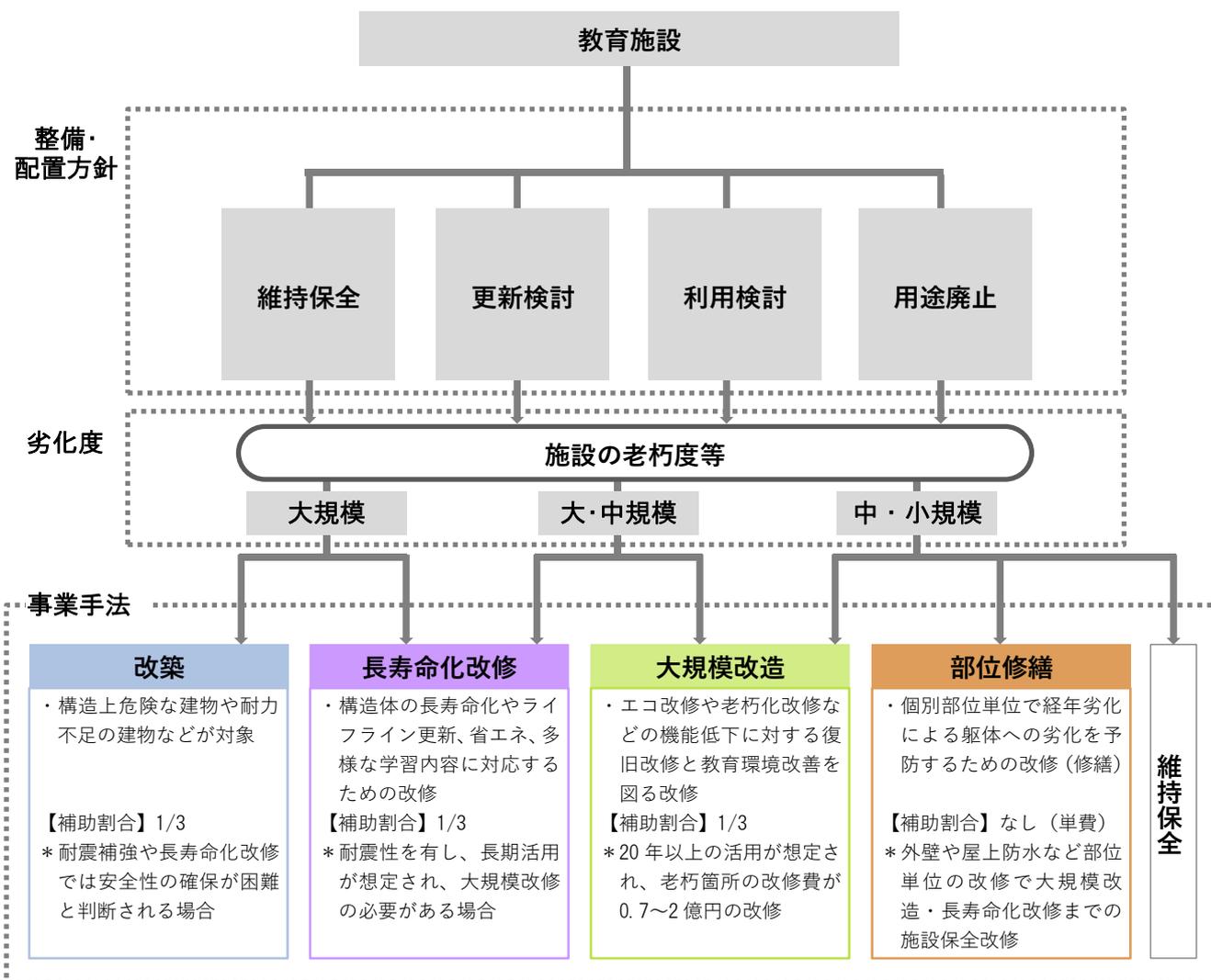
部位	改築	長寿命化改修	大規模改造	現状レベルの部位修繕	現状の整備レベル	
外部仕上げ	屋根・屋上	外断熱保護防水 (断熱材 50mm) (既存撤去) ガルバリウム鋼板	ウレタン塗膜防水 (断熱材 25mm) (既存撤去) ガルバリウム鋼板	ウレタン塗膜 防水 全面塗装	塗膜防水等 板金塗装 (断熱無)	アスファルト防水 板金塗装
	外壁	ガルバリウム鋼板 他		全面塗装 クラック補修	外壁塗装 (現状と同レベル)	複層・厚付塗材
		外断熱	内断熱補強		既存のまま	既存のまま
	外部開口部	高性能樹脂サッシ (Low-E 複層ガラス)	内窓樹脂サッシへの交換 (複層ガラス)	シーリング 打ち替え・ 開閉調整	既存のまま	アルミサッシ
その他外部	日射抑制装置設置	庇・ルーバー等を 設置	庇等を設置しない		既存のまま	
内部仕上げ	内部仕上	内装の全面撤去・更新 (木質化)		床補修 壁・天井塗替え (部分補修)	既存のまま	
	トイレ	内装ドライ化 洋式節水型便器 多目的トイレ	内装の全面撤去・ 更新(ドライ化) 節水型便器へ交換 多目的トイレ整備	多目的トイレ 整備	床補修 壁・天井塗替え (部分補修)	既存便器のまま
設備	暖房	床暖房・地中熱ヒートポンプ		既存設備更新	既存のまま (FF 式暖房機 等)	
	照明	LED 照明			既存のまま	蛍光灯 等

# 第5章 長寿命化の実施計画

## 1 優先順位の考え方

教育施設の改修等は、先に示した教育施設の整備・配置方針を踏まえた上で、長寿命化型の保全パターンによる改修周期をベースとし、改善実績、現在の劣化状況、教育環境向上や整備費の平準化等に配慮し計画的に実施します。

図 5-1 優先順位の考え方



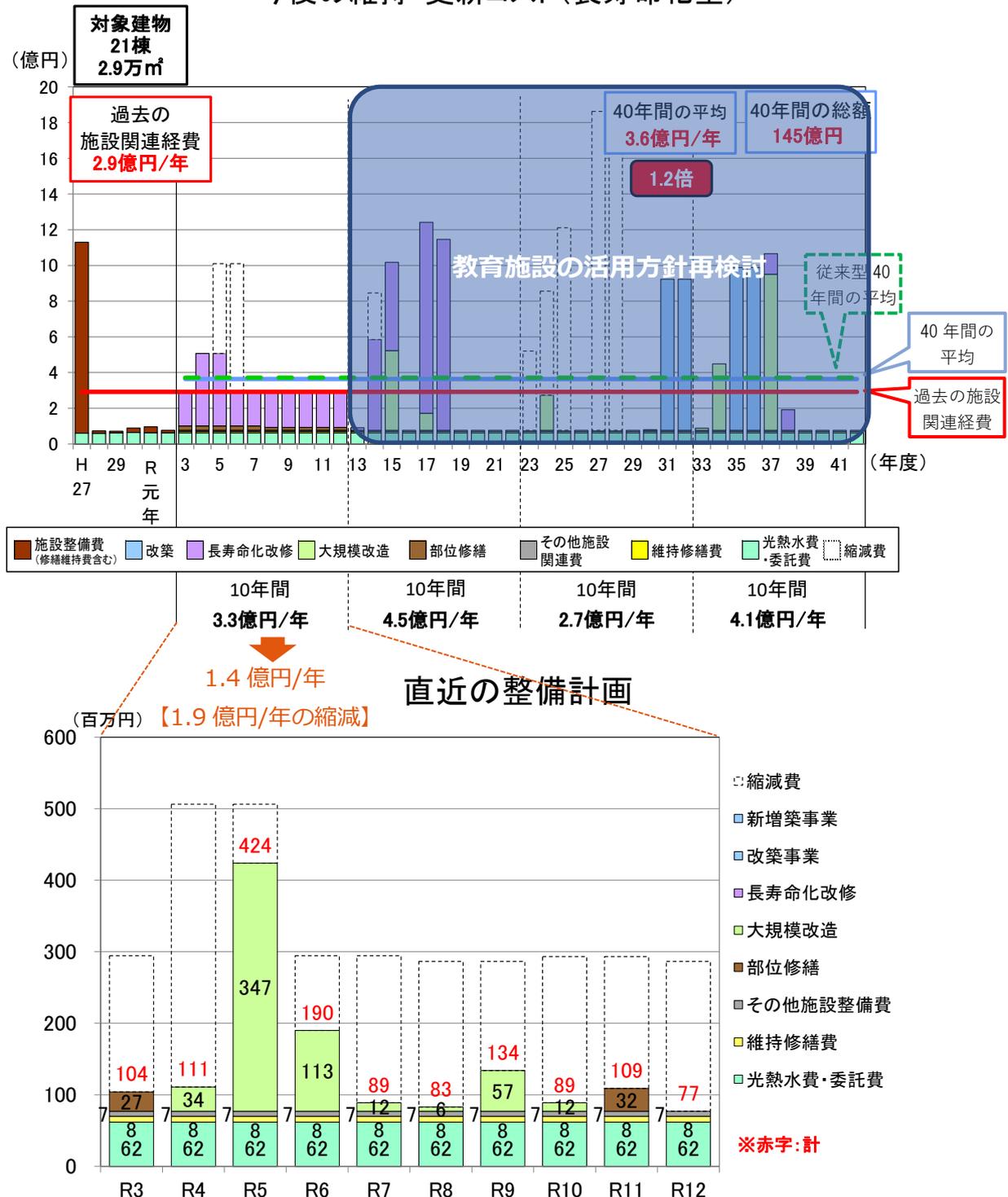


#### 4 長寿命化のコストの見通し・長寿命化の効果

本計画期間内に想定された事業費については、年平均で約 1.9 億円のコストの縮減となりますが、本計画期間後は、現状の教育施設数を維持した場合、老朽施設が改築周期を迎えるなど、本計画期間に比べコストの大幅な増加が想定されます。

本計画期間後の維持・更新コストの縮減化に向けては、概ね 10 年毎に教育施設の活用方針等について、年少人口動向や建物の劣化状況等を踏まえた再検討を行う必要があります。

#### 今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



※コスト算出設定:

- ・大規模改造・部位修繕:表 5-2「計画期間内における実施計画」参照 (P56)
- ・その他施設関連費、維持修繕費、光熱水費・委託費:平成 27~令和元年度平均 (P20 参照)

## 第6章 長寿命化計画の継続的運用方針

### 1 情報基盤の整備と活用

修繕や改善履歴は、都市整備課の修繕経歴書を更新しデータベースとして蓄積することとし、適宜教育委員会と情報共有しながら活用していきます。

### 2 推進体制等の整備

教育施設の所管課である教育委員会を中心に、本計画を含む教育施設のマネジメントを行っていきます。また、必要に応じて全庁的な体制で対応を図っていきます。

### 3 フォローアップ

計画の内容については、今後の財政状況や環境の変化、事業進捗に応じて、概ね5年で見直しを行うこととします。

また、事業の計画・実施においては、議会や町民に対し随時情報提供を行い、町全体で認識の共有化を図ります。